ThinkVantage System Migration Assistant 5.2

ユーザーズ・ガイド

ThinkVantage System Migration Assistant 5.2

ユーザーズ・ガイド

注: 本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 85 ページの『付録 D. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原　典： ThinkVantage System Migration Assistant 5.2
User's Guide

発　行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担　当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.12

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

目次

図

本書について

本書は、ThinkVantage® System Migration Assistant (SMA) 5.2 のインストールと使用について説明しています。

本書の構成

1 ページの『第 1 章 Migration Assistant の紹介』 では、SMA の概要と機能を紹介します。

15 ページの『第 2 章 SMA のインストールとアンインストール』 では、SMA のインストールとアンインストールの手順を示しています。

21 ページの『第 3 章 移行の機能と設定』では、SMA グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して標準移行を実行する方法を説明しています。

65 ページの『付録 A. 移行可能なアプリケーション設定』には、サポートされるアプリケーションと移行が可能な設定の詳細リストを記載します。

77 ページの『付録 B. トラブルシューティング』は、移行するときに起こりうる問題に対する解決策を説明します。

83 ページの『付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手』には、ヘルプおよび技術支援を受けるための ThinkVantage Support Web サイトへのアクセスについての情報が含まれています。

85 ページの『付録 D. 特記事項』には、製品の特記事項を記載しています。

87 ページの『付録 E. 商標およびライセンス』には、本書で使用される商標がリストされています。

本書で使用している注記

本書では、重要情報を強調して示すために以下のような注記を記載しています。

- **注:** この注記は、重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。
- **重要:** この注記は、不便な状態または困難な状態を回避するのに役立つと思われる情報またはアドバイスを提供します。
- **アテンション:** この注記は、プログラム、装置、またはデータに損傷が生じる可能性があることを示します。損傷の発生につながる可能性のある手順または状態の直前に、この「アテンション」の注記が挿入されます。

本書で使用している構文規則

本書での構文は、以下の規則に準拠しています。

- コマンドは小文字で示される。
- GUI エレメントは**太字**で示される。

アクセシビリティ

SMA は、動きが制限されたり視力に限界があるなどの身体的な制限のあるユーザーがアクセスできるように設計されています。 SMA は以下のようなユーザー補助機能を備えています。

- **ハイ・コントラスト**: SMA は、オペレーティング・システムのカラー・スキームとハイ・コントラスト表示をサポートします。オペレーティング・システムが「ハイ・コントラスト」に設定されていれば、SMA のインターフェース・エレメントのいくつかは大きく表示されます。ヘルプ・ウィンドウの内容が欠けたり他のエレメントと重なる場合は、ウィンドウを最大化してみてください。
- **音声合成のサポート**: SMA には、音声合成サポートを使用可能に設定している場合、SMA が使用するメッセージとヘルプ画面をユーザーに読み上げるサポートが組み込まれています。音声合成サポートを有効にするには、Microsoft Narrator(R) あるいは JAWS をダウンロードしインストールする必要があります。
- キーボード・ナビゲーション: キーボードを使用して SMA 画面をナビゲートすることができます。

  以下のタスクは、ファンクション・キーの組み合わせで実行することができます。

表 1.

コマンド	**ショートカット**
次へ	CTRL + N
戻る	CTRL + B
ヘルプ	CTRL + H
キャンセル	ESC

ワールド・ワイド・ウェブの ThinkVantage System Migration Assistant リソース

以下の Web ページは、SMA とシステム管理ツールを理解、使用、およびトラブルシューティングするためのリソースを示しています。

ThinkVantage System Migration Assistant 5.2 ホーム・ページ

http://www.lenovo.com/think/support/site.wss/document.do?sitestyle=lenovo&lndocid=MIGR-50889

最新の SMA ソフトウェアおよび資料をダウンロードする場合に、この Web ページにアクセスします。

ThinkVantage Personal Computing Support - ThinkVantage Technology ページ

http://www.lenovo.com/think/support/site.wss/document.do?sitestyle=lenovo&lndocid=TVAN-START

ThinkVantage Technology の情報を検索する場合に、この Web ページを参照します。

ThinkVantage Personal Computing Support ページ

http://www.lenovo.com/think/support

ThinkVantage Personal Computing Support の Web サイトにアクセスする場合に、この Web ページに進みます。

第 1 章 Migration Assistant の紹介

ThinkVantage(R) System Migration Assistant (SMA) は、あるコンピューターから別のコンピューターに*作業環境*を移行する場合に使用できるソフトウェア・ツールです。ユーザーの作業環境には、以下のエレメントが含まれます。

- オペレーティング・システム設定 (例えば、デスクトップおよびネットワーク接続設定)
- ファイルとフォルダー
- カスタマイズされたアプリケーション設定 (例えば、Web ブラウザーのブックマークやワード・プロセッサー・ソフトウェアの編集設定)
- ユーザー・プロファイル

システム管理者は SMA を使用して、企業の標準作業環境をセットアップしたり、個々のユーザーのコンピューターをアップグレードしたりできます。個々のユーザーは SMA を使用して、設定とファイルを 1 つのコンピューター・システムから別のコンピューター・システム (例えば、デスクトップ・コンピューターからモバイル・コンピューター (ノートブック)) に移行できます。

SMA の機能

SMA は、コンピューターの作業環境のスナップショットを取ることから開始します。次に、このスナップショットを原画として使用して、作業環境を別のコンピューターに複写します。 SMA がスナップショットを取るコンピューターは*ソース・コンピューター* です。スナップショットが複写されるコンピューターは*ターゲット・コンピューター*です。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、物理的に別々の場所に設置することもでき、さらにそれぞれ異なる時間帯にあってもかまいません。

SMA は、次の 3 つのフェーズを使用して 1 つのコンピューターから別のコンピューターに作業環境を移行します: すべてのユーザーのための*取り込み*フェーズ、コンピューターにローカル管理者としてログオンしているユーザーのための*適用*フェーズ、および、初期適用フェーズ時にログオンしていないローカルまたはドメイン・ユーザーのための*遅延適用*フェーズ。

移行には、「*簡易移行*」および「*カスタム移行*」の 2 つの方法があります。簡易移行は、すべてのユーザーにお勧めする移行タイプです。カスタム移行は、移行設定の選択/選択解除に使用するユーザー・インターフェースを提供します。カスタム移行は上級者にお勧めします。移行ファイルの作成およびソース・コンピューターから移行を開始する機能を含め、すべての移行オプションが使用可能です。

簡易移行

ユーザーが 1 人の場合に行う簡易移行の*取り込みフェーズ* では、以下の項目がソース・コンピューターからコピーされます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定

- アプリケーション設定
- ファイルとフォルダー

これらの設定とファイルは、PC から PC への移行の間にターゲット・コンピューターに直接転送されます。

「*適用フェーズ*」では、取り込み済みの設定とファイルが SMA によりターゲット・コンピューターに適用されます。

カスタム移行

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*取り込みフェーズ* では、ソース・コンピューターから以下の項目を選択およびコピーすることができます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定
- ファイルとディレクトリー
- バックグラウンド・ユーザーのユーザー・プロファイル

これらの設定とファイルは、SMA 移行ファイルに保存されるか、PC から PC への移行の間にターゲット・コンピューターに直接転送されます。

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*適用フェーズ* では、SMA で以下の 2 つのタスクが行われます。

- 移行ファイルをターゲット・コンピューターの管理者ユーザーに適用する。この場合、移行ファイル全体を適用するか、移行ファイルの中から適用するコンポーネントを指定するかを、ユーザーが選択できます。
- 他のユーザーのために遅延適用タスクの準備をする。

その他のバックグラウンド・ユーザーがコンピューターに最初にログオンするときに、そのユーザーのプロファイルの設定は自動的に適用されます。

システム要件

このセクションでは、ハードウェアおよびユーザー・アカウントの要件と、サポートされるオペレーティング・システムについて記載します。さらに、移行シナリオについても説明します。

ハードウェア要件

ソース・コンピューターは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ハード・ディスクに、SMA インストール・ファイル用に 40 MB のフリー・スペースがある。

- ハード・ディスクに、取り込みフェーズで作成される一時ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがある。必要なディスク・スペースは、移行されるファイルのサイズによって異なります。

ターゲット・コンピューターは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ハード・ディスクに、SMA インストール・ファイル用に 40 MB のフリー・スペースがある。
- ハード・ディスクに、取り込みフェーズで作成される一時ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがある。必要なディスク・スペースは、作成されるファイルのサイズによって異なります。
- ターゲット・コンピューターが SMA 移行ファイルにアクセスできる。この場合、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)、取り外し可能メディア (USB 取り外し可能ドライブなど)、またはイーサネット・クロスケーブルを使用することができます。
- PC から PC への移行の場合、ターゲット・コンピューターのディスク上には、移行ファイルの合計サイズと同等のフリー・スペースが必要です。

サポートされるオペレーティング・システム

SMA 5.2 は、以下のオペレーティング・システムにインストールできます。

- Windows® 98 (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows 98 Second Edition (SE) (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows NT® Workstation 4.0 SP6a (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Home
- Windows XP Professional
- Windows XP Tablet PC Edition 2005
- Windows Vista Home Basic 32 / 64
- Windows Vista Home Premium 32 / 64
- Windows Vista Business 32 / 64
- Windows Vista Ultimate 32 / 64

これ以降、Windows 98 と Windows 98 SE を Windows 98 と呼び、Windows XP Professional、Windows XP Home と Windows XP Tablet PC Edition 2005 を Windows XP と呼び、Windows Vista のすべてのバージョンを Windows Vista と呼びます (ただし、これらを区別しなければならない場合を除きます)。

注:

1. ユーザー・プロファイルの移行は、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP、および Windows Vista でサポートされます。
2. Windows 98 では、SMA は現在ログオンしているユーザーの作業環境のみを移行できます。
3. Windows 98 では、マルチユーザー・プロファイルの移行はサポートされていません。

4. SMA 5.2 は Microsoft® Internet Explorer 5.0 以降をサポートします。

サポートされる移行シナリオ

SMA を使用すると、オペレーティング・システム内およびオペレーティング・システム間でユーザーの作業環境を移行できます。表 2 に、どの移行シナリオが有効かを示します。「はい」に「*」が付いたシナリオは、ファイルとフォルダーの移行のみサポートされることを表します。

表 2. SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ

ソース・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム											
	Windows 2000 Professional	Windows XP Home	Windows XP Professional	Windows XP Tablet PC Edition 2005	Windows Vista Home Basic 32	Windows Vista Home Premium 32	Windows Vista Business 32	Windows Vista Ultimate 32	Windows Vista Home Basic 64	Windows Vista Home Premium 64	Windows Vista Business 64	Windows Vista Ultimate 64
Windows 98	はい	はい	はい	いいえ	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*
Windows NT 4.0	はい	いいえ	はい	いいえ	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*	はい*
Windows 2000 Professional	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows XP Home	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows XP Professional	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows XP Tablet PC Edition 2005	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows Vista Home Basic 32	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows Vista Home Premium 32	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows Vista Business 32	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows Vista Ultimate 32	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい
Windows Vista Home Basic 64	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい
Windows Vista Home Premium 64	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい

表 2. *SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ (続き)*

ソース・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム											
	Windows 2000 Professional	**Windows XP Home**	**Windows XP Professional**	**Windows XP Tablet PC Edition 2005**	**Windows Vista Home Basic 32**	**Windows Vista Home Premium 32**	**Windows Vista Business 32**	**Windows Vista Ultimate 32**	**Windows Vista Home Basic 64**	**Windows Vista Home Premium 64**	**Windows Vista Business 64**	**Windows Vista Ultimate 64**
Windows Vista Business 64	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows Vista Ultimate 64	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、Windows の同じ言語版を実行している必要があります。

SMA 5.2 の新機能

SMA 5.2 には、以下の新機能と拡張機能が含まれます。

- Windows Vista(R) オペレーティング・システム (32 ビットおよび 64 ビット) のサポート
  - Windows Vista Home Basic
  - Windows Vista Home Premium
  - Windows Vista Business
  - Windows Vista Ultimate
- 以下のアプリケーションのサポート:
  - Corel WordPerfect Suite
    - WordPerfect 12
    - Quattro 12
    - Presentations 12
  - Adobe Illustrator 12
  - Adobe Photoshop 8.0
  - Adobe PageMaker 7.0
  - Microsoft Publisher 2003
  - Mozilla Firefox 1.5
  - Palm Desktop 4.1
  - Google Desktop 4.2
  - Google Earth 4.0
  - Microsoft Internet Explorer 7
  - Microsoft Windows Mail 5.0

- Microsoft Office 2007
  - Microsoft Word
  - Microsoft Excel
  - Microsoft Powerpoint
  - Microsoft Publisher
  - Microsoft Outlook
- 新規バージョンの ThinkVantage Technology アプリケーションのサポート
  - Access Connection 4.3
  - Fingerprint Software 5.5 および 5.6
  - Rescue and Recovery 4.0
  - Client Security Solution 8.0
- 使いやすさの機能拡張:
  - 簡易移行後の移行要約ビュー
  - 現行ユーザー・プロファイルの Windows EFS データ移行
  - 移行ファイル作成時のパフォーマンスの改善

前のリリースからのアップグレード

SMA 5.2 には SMA 5.0 または SMA 5.1 からのアップグレードが可能です。 SMA 5.2 をインストールする前に、古いバージョンの SMA をアンインストールする必要はありません。

SMA 5.2 移行ファイルのデータ・フォーマットは SMA 4.x 以前のバージョンと互換性がありません。 SMA 4.x によって取り込まれた SMA プロファイルは、SMA 5.2 では適用できず、その逆もまた同様です。

SMA 5.0 または 5.1 移行ファイルは SMA 5.2 で適用可能ですが、 SMA 5.2 移行ファイルは SMA 5.0 または 5.1 では適用できません。

ユーザー・アカウントの要件

SMA がサポートするすべての設定を移行するには、ソースおよびターゲットの両コンピューターに管理特権を持つアカウントでログオンする必要があります。

表 3 は、それぞれのユーザー・アカウントごとに移行可能なタイプと移行可能な設定を示します。

表 3. それぞれのユーザー・アカウントごとに移行される、有効な移行タイプと設定

ソースおよびターゲット両コンピューター上のユーザー・アカウントのタイプ	移行のタイプ		設定	
	マルチユーザーの移行	**PC から PC への移行**	**システム設定**	**個人用設定**
管理者	はい	はい	はい	はい
パワー・ユーザー	いいえ	はい	はい[1]	はい

表 3. それぞれのユーザー・アカウントごとに移行される、有効な移行タイプと設定 (続き)

ソースおよびターゲット両コンピューター上のユーザー・アカウントのタイプ	移行のタイプ		設定	
	マルチユーザーの移行	PC から PC への移行	システム設定	個人用設定
標準ユーザー (Windows Vista)	いいえ	はい	いいえ	はい
制限ユーザー	いいえ	いいえ	いいえ	はい

[1]パワー・ユーザー・アカウントとしてログオンしたユーザーには、次のネットワーク設定は移行できません。

- TCP/IP 構成
- ネットワーク識別
- 共用フォルダー/ドライブ

マルチユーザー・プロファイルを同時に移行する、またはシステム設定を移行するためには、ソースおよびターゲットの両コンピューターに管理特権を持つアカウントでログオンする必要があります。マルチユーザー移行の詳細については、『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。

PC から PC への移行を実行するためには、管理特権またはパワー・ユーザー特権を持つアカウントとしてログオンします。

デスクトップ設定のような個人用設定を移行するためには、あるいは、例えば C:¥Documents and Settings¥*username* のようなユーザー・プロファイルのパスのファイルを移行するためには、制限ユーザー特権を持つアカウントとしてログオンできます。

遅延適用フェーズでは、プロファイルが移行されているユーザーは、ローカル管理者アカウント、ローカル制限ユーザー・アカウント、またはドメイン・クライアント・ユーザー・アカウントを使用してターゲット・コンピューターにログオンできます。

マルチユーザー・プロファイルの移行

マルチユーザー移行には、3 種類のユーザー・アカウントが関係しています。

- **フォアグラウンド・ログオン・ユーザー**

  移行時にコンピューターにログオンしているユーザー。このユーザーは管理特権を持つ必要があります。SMA はこのユーザー・アカウントから起動する必要があります。

  このユーザー名は、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウで「ローカル・ユーザー」の 1 つとして表示されます。

- **バックグラウンド・ローカル・ユーザー**

  現在ローカル・コンピューターにログオンしていない、ローカル・コンピューターのユーザー・アカウント。それらは、管理特権を持たない一般ユーザー・アカウントの場合があります。

  これらのユーザーは、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウで「ローカル・ユーザー」として表示されます。
- **バックグラウンド・ドメイン・ユーザー**

  現在ドメインにログオンしていない、ネットワーク・ドメインでのユーザー・アカウント。ドメイン・コントローラーはそれらのアカウント情報を制御し、ローカル・クライアント PC はそれらのプロファイル情報を所有しています。

  これらのユーザーは、ローカル・コンピューターの 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウに「ネットワーク・ユーザー」としてリストされます。また、コントローラー PC のローカル・ポリシーでユーザーがローカルでコントローラー PC にログオンできるように指定されている場合は、ドメイン・コントローラーの「ユーザー・プロファイル」ウィンドウに「ローカル・ユーザー」としてリストされます。

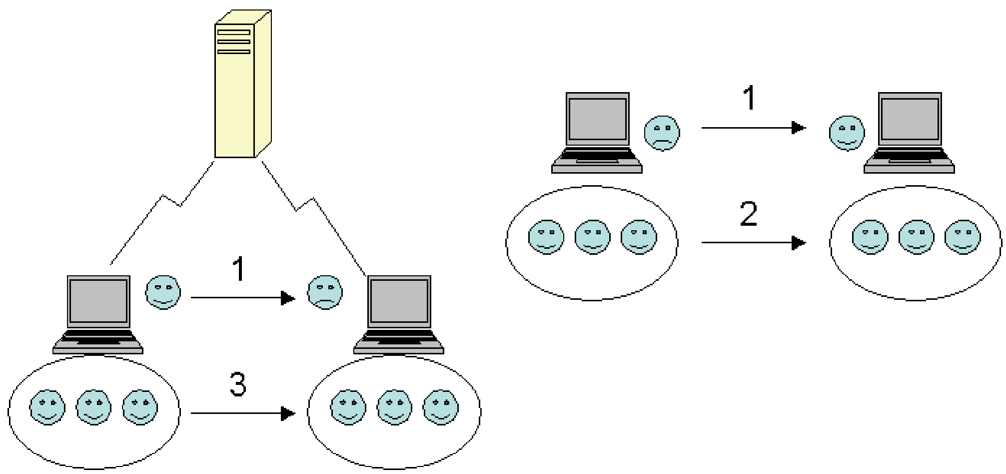


図 1. マルチユーザー・プロファイルの移行: マルチユーザーの移行

ソースおよびターゲットの両コンピューターにログオンしているフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの移行方法については、 21 ページの『第 3 章 移行の機能と設定』を参照してください。

バックグラウンドのローカルまたはドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、「*ThinkVantage System Migration Assistant 5.2 デプロイメント・ガイド*」を参照してください。

マルチユーザー・プロファイルの移行には以下の制約事項が適用されます。

- ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が一致していないと、バックグラウンド・ユーザー用の設定は移行されません。ログオン・ユーザー用の設定のみが移行されます。

- 設定を適用するには、ドメイン・コントローラーがネットワーク上で認識されることが必要です。検索のためには、ドメイン・ユーザーがプライマリー・ドメイン・コントローラー (PDC) になければなりません。
- ローカル・ユーザーの PC から PC への移行の場合はクロスケーブルを使用できますが、ドメイン・ユーザーの移行には使用できません。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルを適用するには、まずネットワーク・ドメイン設定を移行する必要があります。詳しくは、 53 ページの『移行する設定の選択』 を参照してください。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルの一部の設定のみを移行し、設定のすべてを移行しない場合は、ローミング・ユーザー・プロファイルを選択しないでください。これを選択すると、デフォルトですべての設定が移行され、選択内容が無効になってしまいます。
- DBCS 文字を使用するアカウント名のバックグラウンド・ユーザーを移行する場合、ターゲット・コンピューターに新たに作成したユーザー・アカウントのログオン・パスワードは、「**Passw0rd**」で、大/小文字の区別をします。

注: 移行ファイルはターゲット・コンピューターのローカル・ハード・ディスク上に置く必要があります。別の場所に保存すると、バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはバックグラウンド・ドメイン・ユーザーの設定が、遅延適用フェーズで正しく適用できません。 SMA では、ネットワーク・ドライブや取り外し可能メディア・ドライブにある移行ファイルは見つけられません。これらのドライブは、ユーザーがコンピューターにログオンした直後は使用準備ができていない可能性があるためです。

移行の方法

ソースおよびターゲット・コンピューターを LAN 経由で、あるいはイーサネット・ケーブルで直接接続することにより、または取り外し可能ストレージ・デバイスを使用することにより移行を行うことができます。

PC から PC への移行

作業環境をソース・コンピューターから直接ターゲット・コンピューターに移行するには、PC から PCへの移行を実施します。 PC から PC への移行は、ソース・コンピューターに SMA 移行ファイルを保存する空きディスク領域が十分に確保できない場合に有効です。

PC から PC への接続のセットアップ

PC から PC への移行を行うには、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方にネットワーク・インターフェース・カード (NIC) が装備されている必要があります。TCP/IP プロトコルが使用可能に設定され、両方のコンピューターが同じ LAN 内のノードであることも必要です。

イーサネット・ケーブルを使用すると、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間のネットワーク接続を以下の方法で確立することができます。

直接接続:

- **クロスケーブルを使用した直接接続:** クロスケーブルは 2 つのコンピューター間を、ネットワーク・インターフェース・カード (NIC) アダプターの片方のアダプ

ターの送信ペアが別のアダプターの受信ペアに向けて送信することによりアダプター間の接続を可能にして、ネットワーク接続を確立します。これに必要となる交差はこのケーブルにより行われます。

- **ストレート・ケーブルを使用した直接接続:** コンピューターのモデルによっては、通常のイーサネット・ケーブルを使用して、必要となる交差を内部交差をサポートする更新されたネットワーク・インターフェース・カード (NIC) アダプターを通して行い、ネットワーク接続を確立することができます。この内部交差により、ネットワークあるいはクロスケーブルを使用しないでコンピューター間の直接接続の確立が可能になります。この場合、必ず両方のコンピューターの IP アドレスが同じネットワークを指定していることを確認してください。 Windows 2000、Windows XP、および Windows Vista では、IP アドレスは自動的に発行されます。 Windows 98 と Windows NT 4.0 では、IP アドレスを手動で入力しなければなりません。

非直接接続:

- **ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) を使用した非直接接続:** LAN は、さまざまなコンピューター間のブリッジとして働きネットワーク接続を作成します。このネットワークは、クロスケーブルを使用しないコンピューター間の直接接続の確立を可能にします。

イーサネット接続を使用して、データと設定をターゲット・コンピューターに直接的に移行できます。ただし、System Migration Assistant をソース・コンピューターにインストールするため、メモリー・キーのような小型の取り外し可能メモリー・デバイスが必要となる場合があります。

接続性の決定

現行の構成を使用してソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間の接続が可能かどうかを決定するには、以下の手順に従ってください。

1. ソース・コンピューターで以下の手順を実行します。
   a. 「**スタート > ファイルを指定して実行**」をクリックして、「**cmd**」と入力します。
   b. ソースのコマンド・プロンプトから「**IPCONFIG**」と入力して Enter を押します。これにより現在の IP アドレスが表示されます。
   c. コンピューターの IP アドレスを記録します。
2. 上記手順をターゲット・コンピューターで繰り返します。
3. ソース・コンピューターのコマンド・プロンプトで、「 **PING xxx.xxx.xxx.xxx**」と入力します。ここで、xxx.xxx.xxx.xxx はターゲット・コンピューターの IP アドレスです。
4. ソース・コンピューターがターゲット・コンピューターから応答を受信し、要求タイムアウトにならないことを確認します。
5. ターゲット・コンピューターのコマンド・プロンプトで、「 **PING xxx.xxx.xxx.xxx**」と入力します。ここで、xxx.xxx.xxx.xxx はソース・コンピューターの IP アドレスです。
6. ターゲット・コンピューターがソース・コンピューターから応答を受信し、要求タイムアウトにならないことを確認します。

上記手順が成功すれば、2 つのコンピューターはネットワークを介して正常に通信できます。上記手順が失敗する場合は、すべてのファイアウォールが一時的にオフにされていたか、あるいは SMA のネットワーク接続を許可するように構成されていたかを検査します。ファイアウォールの管理方法については、『ファイアウォールの管理』を参照してください。

ファイル転送による移行

ファイル転送による移行では、ネットワーク接続を確立せずに移行を行うことができます。この場合、移行ファイルの保存用に、USB ハード・ディスクなどの、十分なフリー・スペースを持つ取り外し可能メディアが必要です。ファイル転送による移行は、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターが別の場所にあり、相互のネットワーク接続を確立することが不可能な場合に便利です。

ファイアウォールの管理

重要: PC から PC の接続の確立に問題がある場合は、ファイアウォール・アプリケーションが妨害していることがあります。ファイアウォールを無効にすると問題が解決することがあります。ファイアウォール・アプリケーションを無効にするには、このセクションをお読みください。

System Migration Assistant (SMA) が PC から PC の移行を実行しようとするとき、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間のネットワーク接続が確立されている必要があります。ファイアウォール・アプリケーションは、コンピューター間のネットワーク接続を規制するセキュリティー・システムです。 SMA が接続を確立するためには、コンピューター上のファイアウォール・ソフトウェアが無効になっているか、または SMA のネットワーク・アクセスを許可するように構成されている必要があります。

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのネットワーク接続の確立を許可するには、いかの操作のどれかを実行します。

ファイアウォールを無効にする

ファイアウォールをオフにすることにより、コンピューターはネットワーク接続を受け付けるようになります。一般的に、ファイアウォールをオフにするには、ファイアウォールのユーティリティーを開いて「オフ」または「無効」を選択します。両方のコンピューターでファイアウォールを無効にする必要があります。

ファイアウォールが SMA アクセスを許可するように構成する

ファイアウォール・アプリケーションは、ファイアウォールが着信ネットワーク接続を受け付ける承認済みアプリケーションのリストを保持しています。このリストに SMA を追加することにより、コンピューターは別のコンピューターからのネットワーク接続を受け付けることができます。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で、承認済みアプリケーションのリストに SMA を追加しておく必要があります。アプリケーションを承認済みアプリケーション・リストに追加する方法についての説明は、該当のファイアウォール・アプリケーションの資料を参照してください。 Windows ファイアウォールの構成については、Microsoft Windows ヘルプを参照してください。

以下の手順は、一般的なファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。

注: これらの手順は、ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例にすぎません。完全な説明については、ご使用のファイアウォール・アプリケーションの資料を参照してください。

BlackICE PC Protection を無効にする

以下の手順は、BlackICE(TM) PC Protection ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。より具体的な手順については、BlackICE(TM) PC Protection の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**BlackICE**」アイコンを右クリックします。
2. 「**Stop BlackICE Engine**」を選択します。BlackICE は着信トラフィックのモニターを停止して、赤色の斜線が BlackICE アイコンの上に表示されます。
3. 「**BlackICE**」アイコンをもう一度右クリックします。
4. 「**Stop BlackICE Application Protection**」を選択します。BlackICE は、非承認アプリケーションおよびアプリケーションのネットワーク接続のためのシステムのモニターを停止します。

McAfee Personal Firewall Plus を無効にする

以下の手順は、McAfee Personal Firewall Plus ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。より具体的な手順については、McAfee Personal Firewall Plus の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**McAfee SecurityCenter**」アイコンをダブルクリックします。「McAfee SecurityCenter」が開きます。
2. ウィンドウの左サイドで、「**personal firewall plus**」をクリックします。
3. ウィンドウの右上方で、「**Disable personal firewall plus**」をクリックします。アラート・ウィンドウが開きます。
4. 「**Yes**をクリックします。

注: McAfee Personal Firewall Plus アプリケーションは、システム・トレイの「McAfee SecurityCenter」アイコンを右クリックし「**Personal Firewall > Disable**」を選択しても無効にすることができます。

Norton Personal Firewall を無効にする

以下の手順は、Norton Personal Firewall アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。より具体的な手順については、Norton Personal Firewall の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**Norton Internet Security**」アイコンをダブルクリックします。
2. ウィンドウの左サイドで、「**Norton Internet Security**」をクリックし、「**Status & Settings**」をクリックします。

3. ウィンドウの右サイドで、「**Personal Firewall**」をクリックし、次に「**Turn Off**」をクリックします。Protection Alert ウィンドウが開きます。
4. 「OK」をクリックします。

注: Norton Personal Firewall アプリケーションは、システム・トレイの「Norton Internet Security」アイコンを右クリックし「**Disable Norton Internet Security**」を選択しても無効にすることができます。

Windows(R) Firewall を無効にする

以下の手順は、Windows ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は異なる可能性があります。より具体的な手順については、Microsoft Windows の資料を参照してください。

Windows XP

1. 管理者グループのメンバーとしてのユーザーを使用して Windows にログオンします。
2. 「**ネットワーク接続 (Network Connections)**」フォルダーを開き、求める接続を右クリックして、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。
3. 「**詳細 (Advanced)**」タブを選択します。
4. 「**Windows ファイアウォールの設定 (Settings for Windows Firewall)**」をクリックします。
5. 「**オフ (推奨されません) (Off (not recommended))**」をクリックします。

Check Point Integrity Client を無効にする

以下の手順は、Check Point Integrity Client ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。詳しい手順については、Check Point Integrity Client の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**Check Point Integrity Client**」アイコンをダブルクリックします。
2. 画面の左サイドで、「**Firewall**」をクリックします。
3. ウィンドウの右サイドで、「**Internet Zone Security**」を「**Low**」に設定します。

第 2 章 SMA のインストールとアンインストール

この章では、SMA のインストールとアンインストールについて説明します。

SMA のインストール

SMA のインストールには、次の 2 つのタイプがあります。

- **標準インストール**: SMA の標準インストールを実行するには、まず管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してローカル側からコンピューターにログオンし、そのコンピューターからインストールを実行する必要があります。
- **サイレント・インストール**: ユーザーが対話を行わずに SMA をインストールする場合は、ネットワークで接続された環境にログオンし、SMA を 1 台以上のコンピューターにインストールします。サイレント・インストールは、通常リモート側で実行します。サイレント・インストールについて詳しくは、「*ThinkVantage System Migration Assistant* デプロイメント・ガイド」を参照してください。

SMA のインストールの前に、2 ページの『ハードウェア要件』および 3 ページの『サポートされるオペレーティング・システム』をお読みください。

標準 SMA インストールの実行

SMA をインストールするためには、以下の手順を完了します。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してコンピューターにログオンします。
2. SMAsetup.EXE プログラムを実行します。 SMA の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。



図 2. 標準 SMA インストールの実行: 「SMA ようこそ」ウィンドウ

3. 「次へ」をクリックします。「使用許諾契約」ウィンドウが開きます。



図 3. 標準 SMA インストールの実行: 「使用許諾契約」ウィンドウ

4. 「**使用条件の条項に同意します**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「インストール先のフォルダー」ウィンドウが開きます。

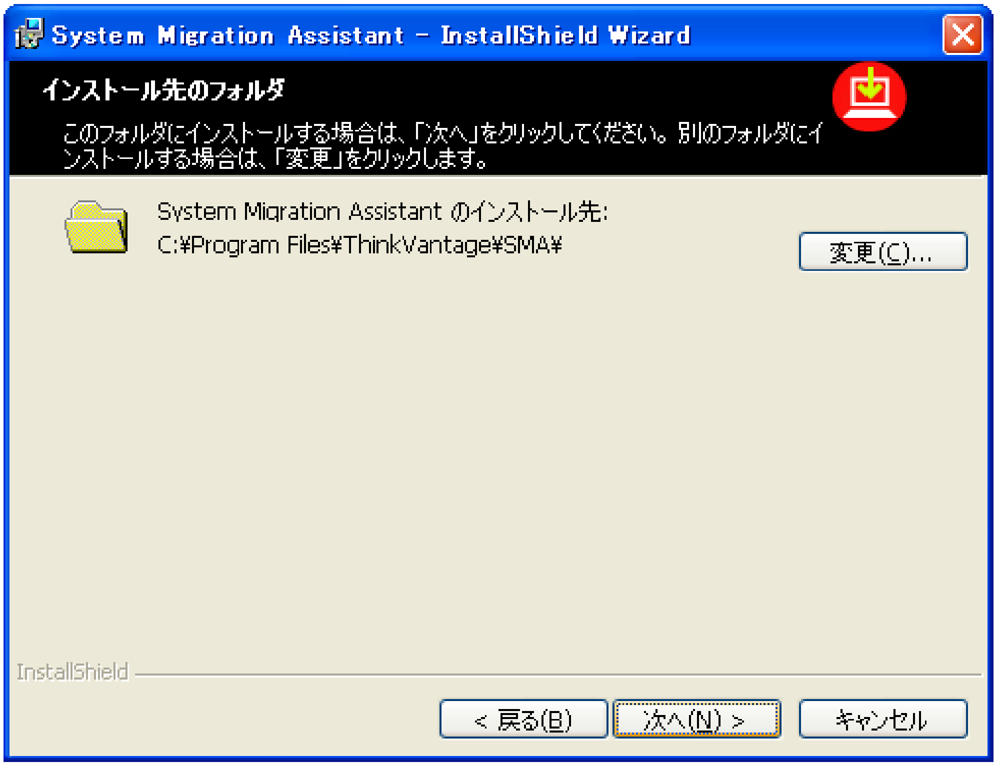


図 4. 標準 SMA インストールの実行: 「インストール先のフォルダー」ウィンドウ

5. デフォルトでは、SMA が *d*:\Program Files\ThinkVantage\SMA にインストールされます。ここで、*D* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。以下の操作のどちらかを実行します。
   - 「**次へ**」をクリックして、SMA のデフォルトの場所へのインストールを許可します。
   - SMA を別の場所にインストールするには、「**変更**」クリックして、代替のディレクトリーを選択してから、「**次へ**」をクリックします。

   「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウが開きます。

6. 「**インストール**」をクリックします。

注:

- SMA のインストールでは、更新済みダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) ファイルが必要になる場合があります。ご使用のコンピューターが更新済み DLL ファイルを必要とする場合、その旨を通知するウィンドウが開き、インストールを完了するために必要なステップが示されます。
- ファイルを更新するためにアプリケーションを閉じるようにプロンプトが出された場合は、実行中のすべてのアプリケーションを閉じます。アプリケーションを閉じるように再びプロンプトが出されたら、「**無視する**」をクリックします。インストール処理において、更新ファイルがより新しい場合はこれらのファイルを更新します。

InstallShield ウィザードによって SMA がインストールされると、「InstallShield ウィザードを完了しました」ウィンドウが表示されます。



図 5. 標準 SMA インストールの実行: 「InstallShield ウィザードを完了しました」ウィンドウ

7. 「**完了**」をクリックします。

SMA のアンインストール

SMA をアンインストールするには、以下の手順を完了します。

1. 「**スタート**」→「**コントロール・パネル**」をクリックします。「コントロール パネル」ウィンドウが開きます。
2. 「**プログラムの追加と削除**」をダブルクリックします。「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. 「**System Migration Assistant**」をクリックします。
4. 「**削除**」をクリックします。確認ウィンドウが開きます。
5. 「**はい**」をクリックして、画面の指示に従います。

注: SMA のアンインストールでは、必ずしもすべての SMA ファイルが削除されない場合があります。手動で以下のファイルを削除する必要があります。

- SMA の実行で生成される SMA ログ・ファイルと SMA レポート・ファイル。SMA をデフォルトの場所にインストールした場合、これらのファイルはデフォルトのインストール・ディレクトリー内にあります。
- SMA に固有の一時ファイル。デフォルトで、これらのファイルは、インストールされたドライブの _SMA サブディレクトリー内にあります。
- SMA 移行ファイル。これらは拡張子 .SMA が付いたファイルです。

第 3 章 移行の機能と設定

System Migration Assistant は、次の 3 つのフェーズを使用して 1 つのコンピューターから別のコンピューターにカスタマイズされた作業環境を移行します: すべてのユーザーのための取り込みフェーズ、コンピューターにローカル管理者としてログオンしているユーザーのための適用フェーズ、および、初期適用フェーズ時にログオンしていないローカルまたはドメイン・ユーザーのための遅延適用フェーズ。設定の取り込みと適用は、次の移行方式のどちらかを使用して行います。

簡易移行
: 標準的な簡易移行を使用すると、個人用データとアプリケーションの設定を、ターゲット・コンピューターとソース・コンピューターをイーサネット・ケーブルで接続することにより、移行できます。 SMA は、推奨されるデータと設定のすべてをソース・コンピューターから自動的に移行します。簡易移行はターゲット・コンピューターからのみ開始できます。この方式は、*ターゲット主導の移行*とも呼ばれます。

カスタム移行
: カスタム移行を使用すると、個人用データとアプリケーションの設定を、移行ファイルの取り込みと適用を行うことにより、あるいは、ターゲット・コンピューターとソース・コンピューターをイーサネット・ケーブルで接続することにより、移行できます。カスタム移行では、移行するデータと設定を選択します。カスタム移行は、システム管理者または上級者のみが実行します。カスタム移行は、ターゲット・コンピューターまたはソース・コンピューターのどちらからも開始できます。

簡易移行の開始については、『簡易移行の開始』を参照してください。

PC から PC へのカスタム移行を開始するには、 32 ページの『PC から PC へのカスタム移行の開始』を参照してください。

取り外し可能メディアを使用してカスタム移行を開始するには、 41 ページの『ファイル転送による移行』を参照してください。

簡易移行

重要

移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。詳しくは、 77 ページの『付録 B. トラブルシューティング』 を参照してください。

簡易移行の開始

簡易移行は、ターゲット・コンピューターから開始し、PC から PC への接続を介してソース・コンピューター上の設定とファイルを取り込みます。 SMA はその後その設定とファイルをターゲット・コンピューターに適用します。簡易移行は、移

行のために推奨される設定とファイルを自動的に選択します。移行のための設定とファイルのカスタマイズについては、 32 ページの『カスタム移行』を参照してください。

簡易移行を実行するには、以下の手順を完了します。

1. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターにログオンします。
2. ターゲット・コンピューターで、「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが表示されます。



図 6. 簡易移行の開始: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが表示されます。

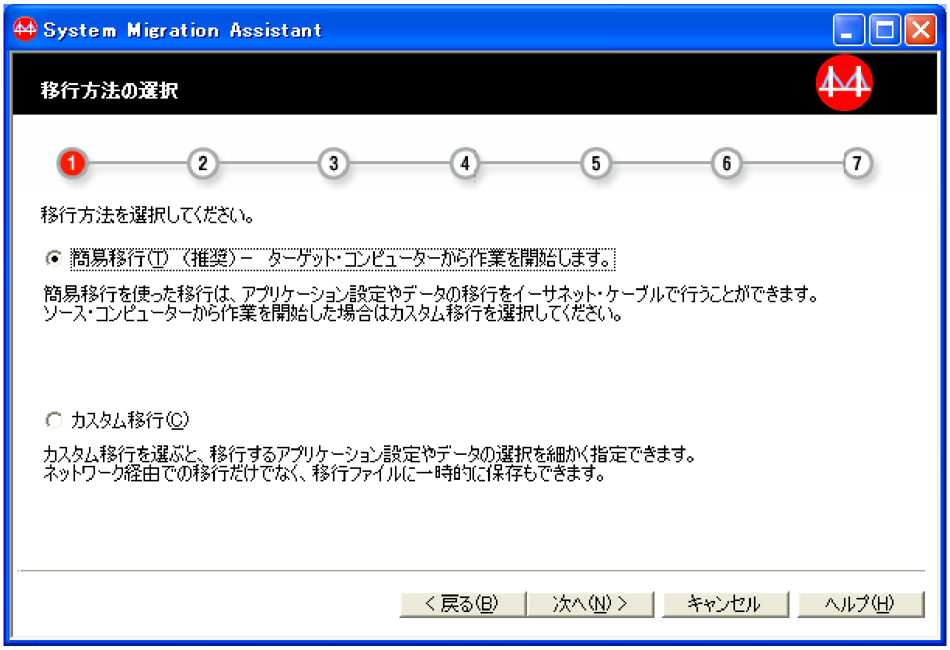


図 7. 簡易移行の開始: 「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **簡易移行**: 「イーサネット・ケーブルで双方のコンピューターを接続し、「OK」をクリックしてください」ウィンドウが開きます。

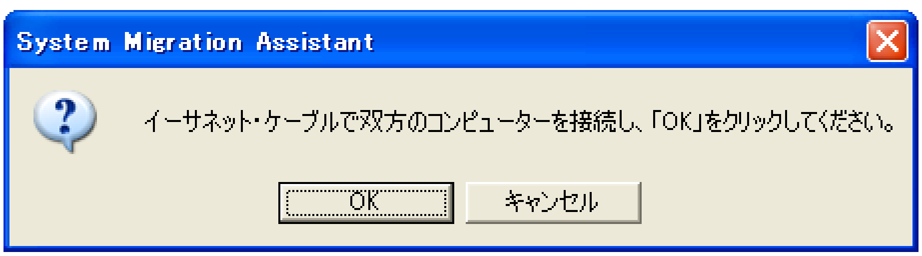


図 8. 簡易移行の開始: 「イーサネット・ケーブルで双方のコンピューターを接続し、「OK」をクリックしてください」ウィンドウ

このオプションを選択した場合は、以下の手順を完了します。

a. 2 つのコンピューター間をイーサネット・ケーブルで接続します。

b. 「**OK**」をクリックします。「インストール方法の選択」ウィンドウが開きます。

- **カスタム移行**: 「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。

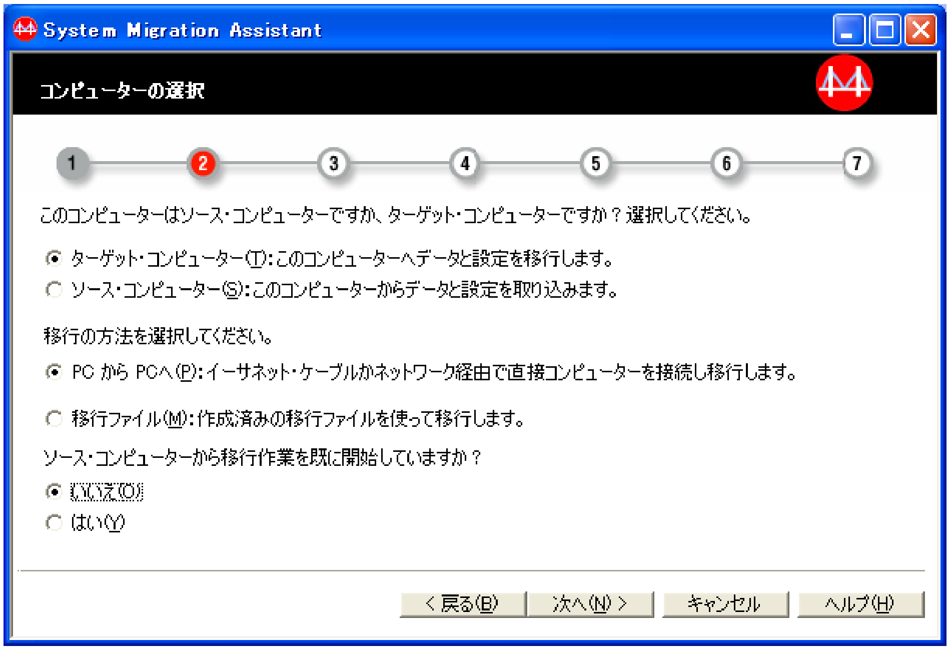


図 9. 簡易移行の開始: 「コンピューターの選択」ウィンドウ

このオプションを選択した場合は、ターゲット主導の移行を実行するため以下の手順を完了します。

a. 「**ターゲット・コンピューター**」、「**PC から PC へ**」と「**いいえ**」を選択します。

b. 「**次へ**」をクリックします。「イーサネット・ケーブルで双方のコンピューターを接続し、「OK」をクリックしてください」ウィンドウが開きます。

c. 2 つのコンピューター間をイーサネット・ケーブルで接続します。

d. 「**OK**」をクリックします。「インストール方法の選択」ウィンドウが開きます。



図 10. 簡易移行の開始: 「インストール方法の選択」ウィンドウ

5. 次のオプションのどちらかを選択し、「**次へ**」をクリックします。
   - **自動**: 接続が確立されるとソース・コンピューターに SMA が自動的にインストールされます。コピー処理が完了すると、「接続の開始」ウィンドウが開きます。このオプションを選択する場合は、次のステップに進みます。
   - **マニュアル**: この方法では、インストール・パッケージをコピーした取り外し可能ドライブを、ソース・コンピューターに移動し、手動でインストールを開始します。 Windows 98 または Windows NT 4.0 が稼働するコンピューター間で移行する場合は、この方法を使用します。このオプションを選択した場合は、以下の手順を完了します。

     a. 取り外し可能ドライブをターゲット・コンピューターに接続します。

b. 「**次へ**」をクリックします。「コピー」ウィンドウが開きます。

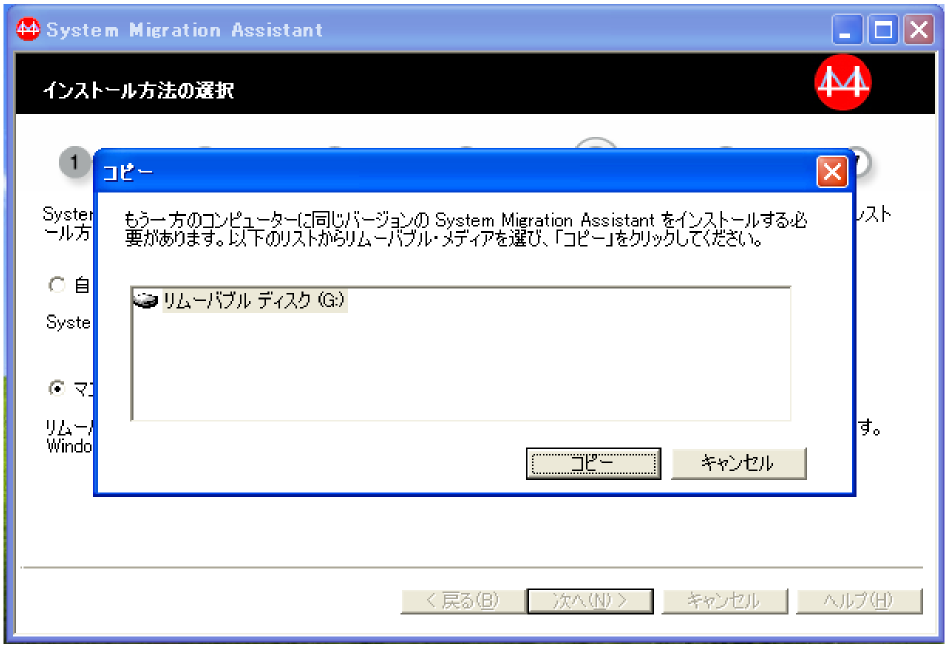


図 11. 簡易移行の開始: 「コピー」ウィンドウ

c. リストから取り外し可能ドライブを選択し、「**コピー**」をクリックします。コピーの状況を示すために「コピーの進行中」ウィンドウが開きます。コピー処理が完了すると、「接続の開始」ウィンドウが開きます。

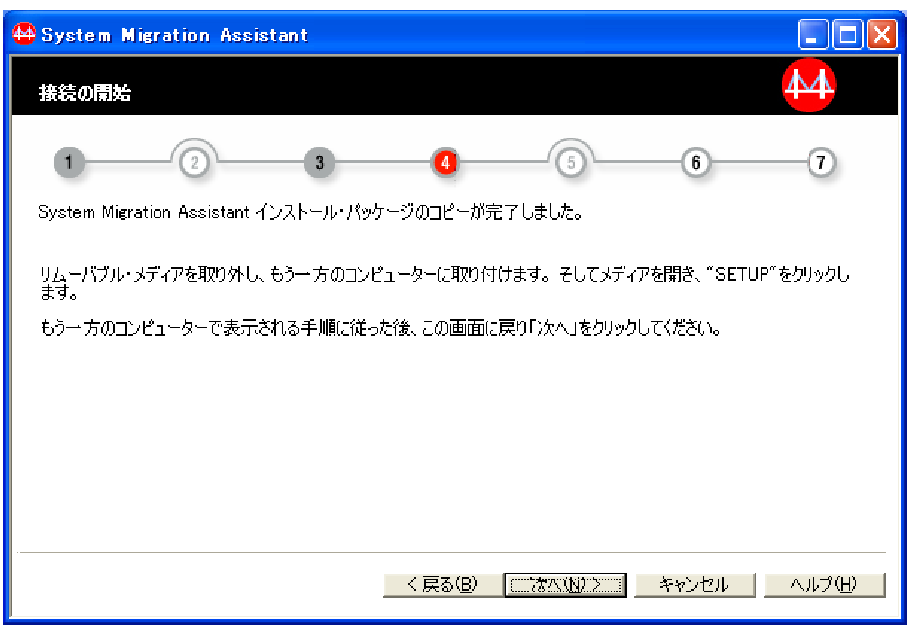


図 12. 簡易移行の開始: 「接続の開始」ウィンドウ

d. 取り外し可能ディスクをターゲット・コンピューターから取り外し、ソース・コンピューターに取り付けます。

e. 取り外し可能ドライブ上の SETUP.BAT ファイルを開きます。インストール処理が開始します。SMA のインストールについては、 32 ページの『カスタム移行』を参照してください。インストールが完了すると、「接続の開始」ウィンドウが開きます。

f. インストールが完了したら、ステップ 9 に進みます。

6. 「接続の開始」ウィンドウの説明に従います。

注: ターゲット・コンピューターのすべてのファイアウォールを使用不可に設定するか、SMA がネットワーク接続を確立できるようにファイアウォールを構成します。ファイアウォールの管理方法については、 11 ページの『ファイアウォールの管理』を参照してください。

7. ソース・コンピューターに向かい、「**スタート**」をクリックしてから、「**ファイル名を指定して実行**」を選択します。「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

注: コンピューターが Windows Vista オペレーティング・システムを実行している場合、「ファイル名を指定して実行」は「スタート・メニュー」に表示されません。「スタート・メニュー」に「ファイル名を指定して実行」を表示するには、「**スタート・メニュー** 」を右クリックしてから「**プロパティ**」を選択します。「タスクバーとスタート・メニューのプロパティー」が表示されたら、「**スタート・メニュー**」タブを選択し、「**カスタマイズ**」をクリックします。「スタート・メニューのカスタマイズ」ウィンドウが開いたら、「スタート・メニュー・オプション」のリストから「**ファイル名を指定して実行**」を選択し、「**OK**」をクリックします。最後に、「タスクバーとスタート・メニューのプロパティー」の「**適用する**」をクリックします。

「ファイル名を指定して実行」は、「**スタート > すべてのプログラム > アクセサリ > ファイル名を指定して実行**」を選択しても開くことができます。



図 13. 簡易移行の開始: 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウ

.

8. 移行に使用する接続を選択して、例えば次のようなコマンドを入力します。

```
¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥SMAPKG¥Launcher.exe
```

ここで、 xxx.xxx.xxx.xxx はターゲット・コンピューターの IP アドレスです。「**OK**」をクリックします。インストールが開始します。

重要

数分の間にインストールが開始しない場合は、2 つのコンピューターが接続されていない可能性があります。どちらかのコンピューターでファイアウォール・アプリケーションがアクティブの場合は、それらを無効にするか、SMA のネットワーク・アクセスを許可するように構成してください。ファイアウォールの管理方法について詳しくは、11 ページの『ファイアウォールの管理』を参照してください。

ユーザー・ログイン・ウィンドウが開くことがあります。必要な場合は、ターゲット・コンピューターのログインとパスワードを入力して、「**OK**」をクリックし、インストールを続行します。

「オープン・ファイル - セキュリティーの警告」ウィンドウが開くことがあります。必要な場合、インストールを続行するため「**実行**」をクリックします。

「インストール中」ウィンドウが開きます。インストールが完了すると、ソース・コンピューターで SMA が起動し、「接続の開始」ウィンドウが開きます。

9. ターゲット・コンピューターで「**次へ**」をクリックします。
10. ソース・コンピューターで、移行したいファイルとフォルダーを選択してから、「**次へ**」をクリックします。

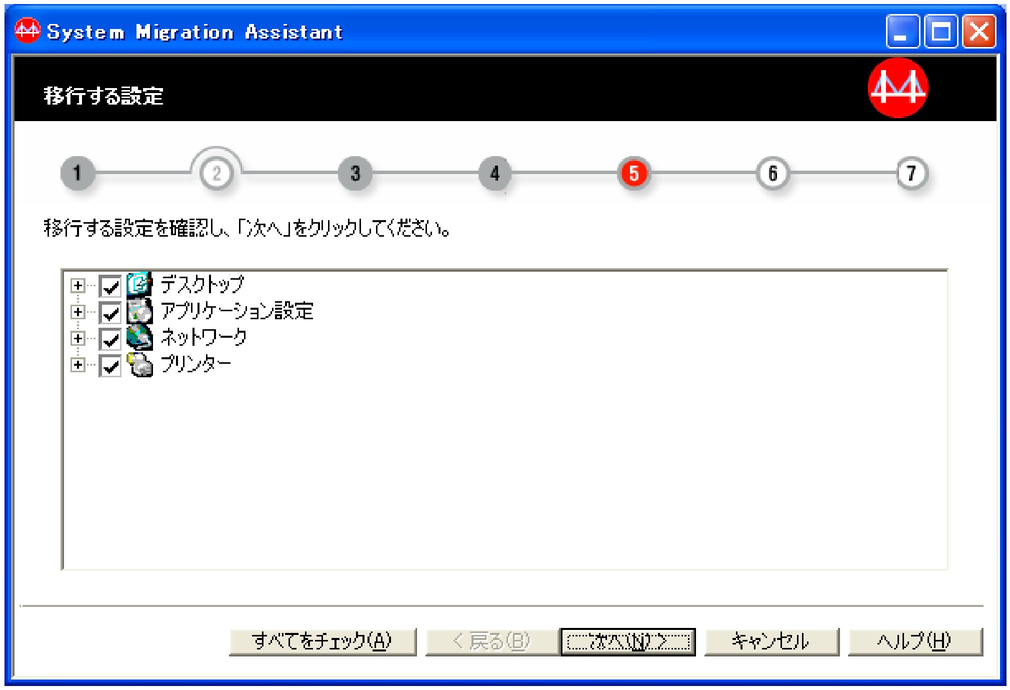


図 14. 簡易移行の開始: 「移行する設定」ウィンドウ

簡易移行の実行中は、一部のデスクトップ設定、アプリケーション設定、およびネットワーク設定のみがリストに表示されます。より多くの設定はカスタム移行で表示されます。カスタム移行のオプションについて詳しくは、 53 ページの『移行する設定の選択』を参照してください。移行設定の選択が終了すると、SMA は移行可能なファイルとフォルダーの選択リストを作成します。これには数分かかることがあります。

11. ソース・コンピューターで、移行したいファイルとフォルダーを選択してから、「**次へ**」をクリックします。「確認」ウィンドウが表示されます。移行のためのファイルとフォルダーの選択については、 60 ページの『移行するファイルとフォルダーの選択』を参照してください。

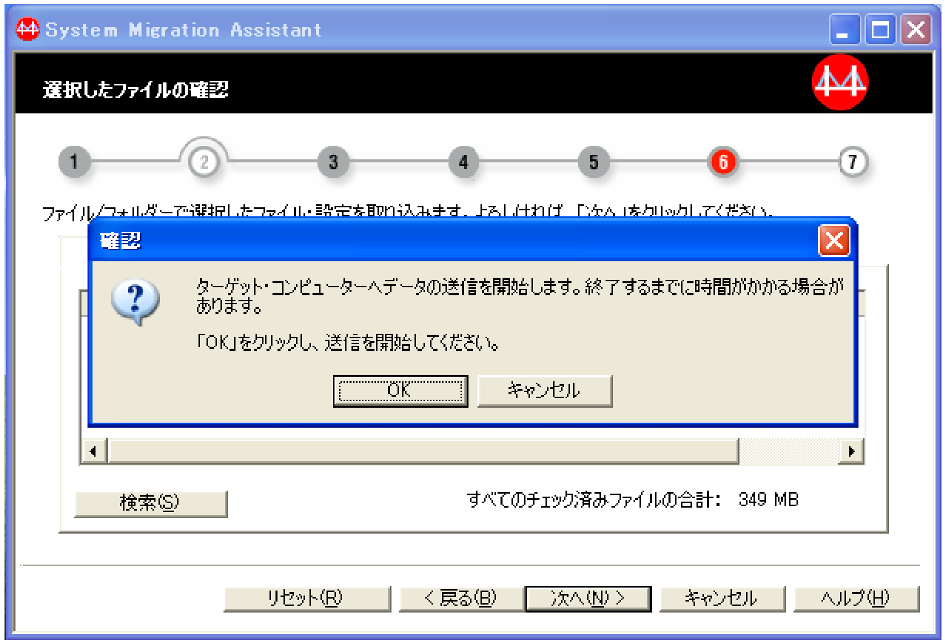


図 15. 簡易移行の開始: 「確認」ウィンドウ

12. 「**OK**」をクリックします。SMA は選択された設定とファイルを取り込み、それらをターゲット・コンピューターに送信し、適用します。 移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

重要: 「**キャンセル**」をクリックして適用プロセスを停止することができます。ただし、SMA による適用処理中の未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

設定とファイルの適用が終了すると、「移行サマリー」ウィンドウがソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で開きます。

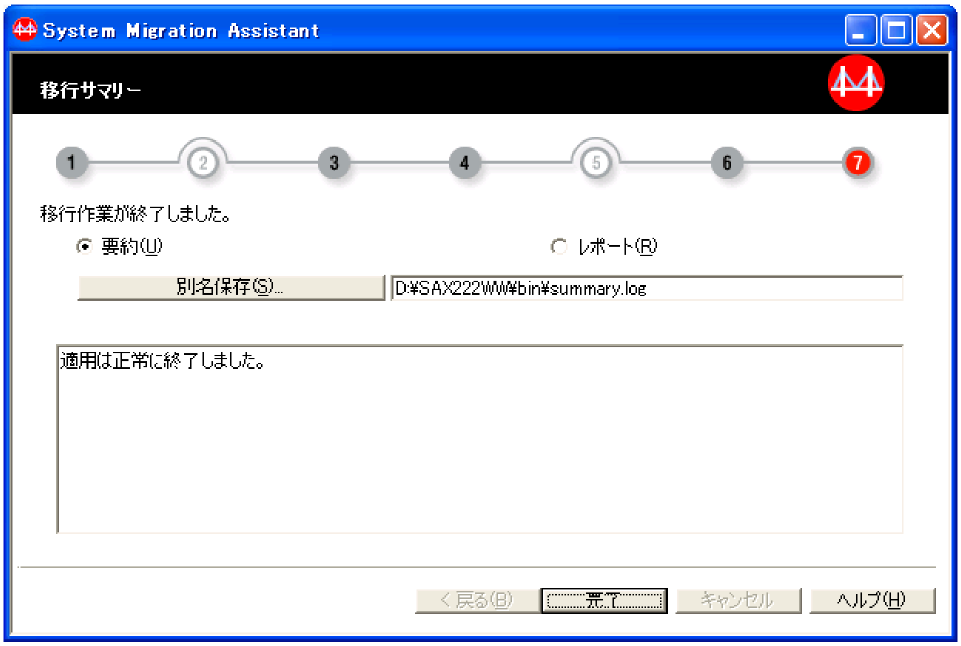


図 16. 簡易移行の開始: 「移行サマリー」ウィンドウ

13. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保存するには、次のステップを完了します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保存...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。
    c. ダイアログで場所とファイル名を指定してから「**保存**」をクリックします。
14. ターゲット・コンピューターとソース・コンピューターの両方で「**完了**」をクリックします。ターゲット・コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。「**OK**」をクリックすると、コンピューターが即時に再起動されます。

カスタム移行

カスタム移行では、作業環境をソース・コンピューターから取り込みターゲット・コンピューターに適用します。ターゲット・コンピューターに接続した後に、移行したい設定とファイルを選択します。

カスタム移行は、ターゲット・コンピューターまたはソース・コンピューターのどちらからも開始できます。カスタム移行の実行については、以下の手順を参照してください。

> **重要**
> 移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

PC から PC へのカスタム移行の開始

PC から PC へのカスタム移行を実行するには、以下の手順を完了します。

1. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターにログオンします。
2. ソース・コンピューターで、「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

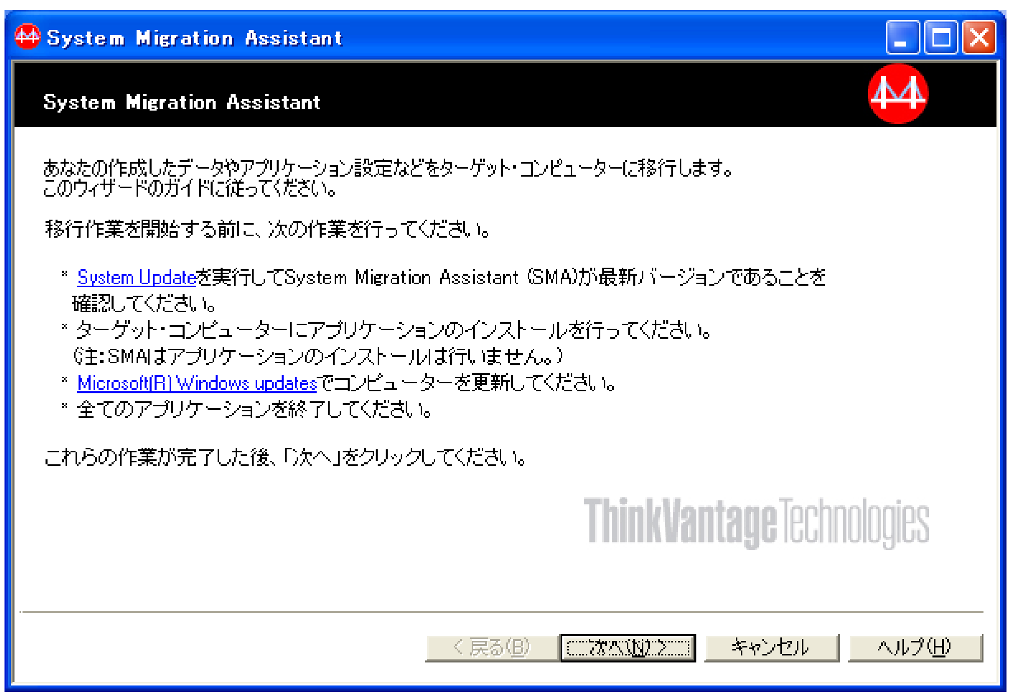


図 17. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが開きます。

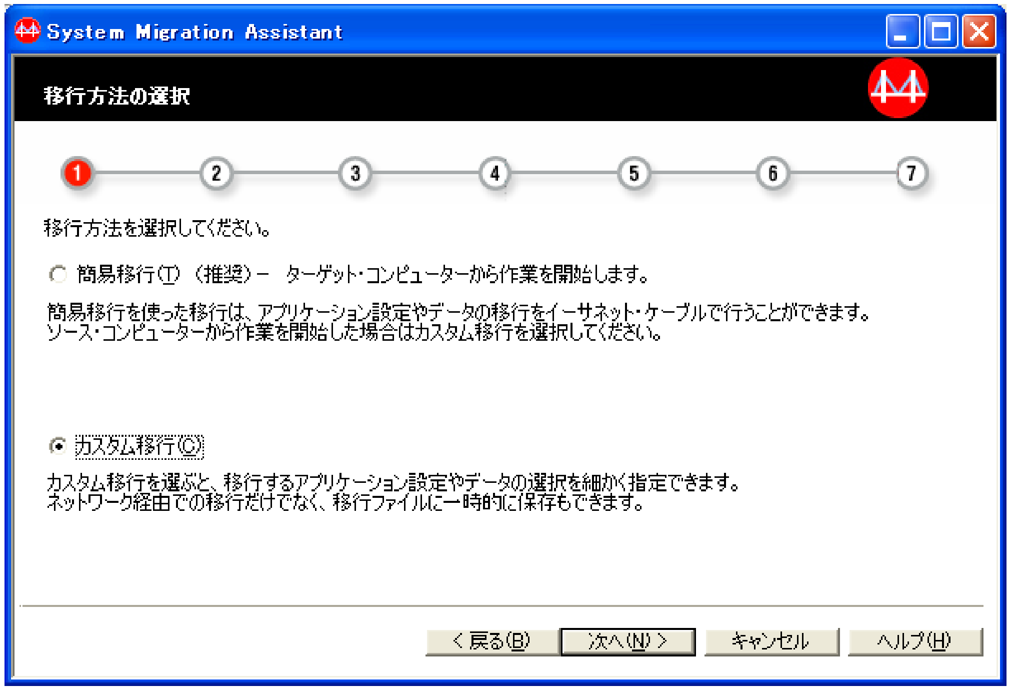


図 18. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。

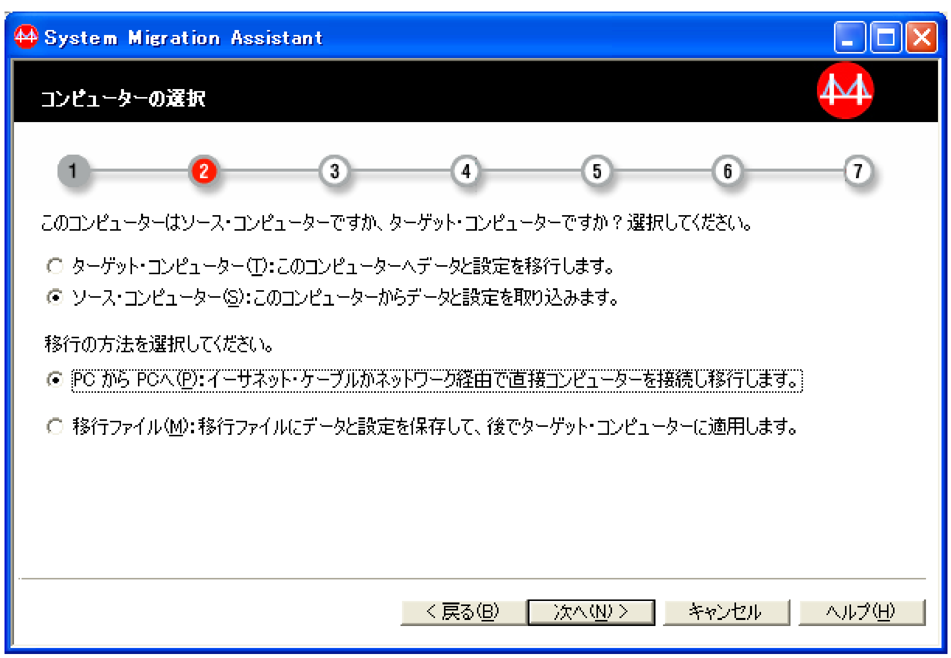


図 19. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「コンピューターの選択」ウィンドウ

5. 「**ソース・コンピューター**」と「**PC から PC へ**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「接続の開始」ウィンドウが開きます。

注: ターゲット・コンピューターのすべてのファイアウォールを使用不可に設定するか、SMA がネットワーク接続を確立できるようにファイアウォールを構成します。ファイアウォールの管理方法については、 11 ページの『ファイアウォールの管理』を参照してください。

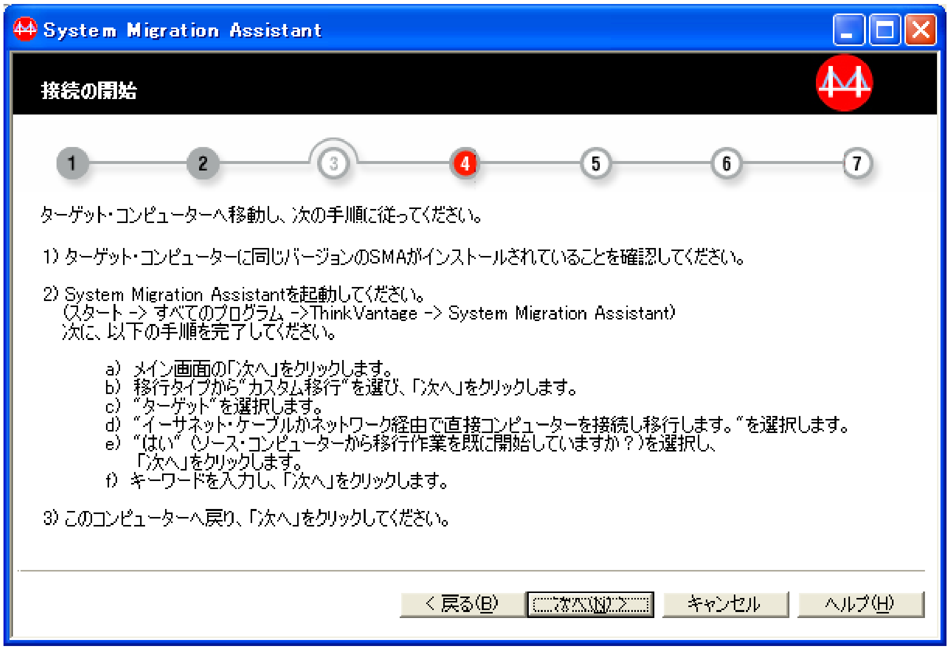


図 20. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「接続の開始」ウィンドウ

6. ターゲット・コンピューターに向かいます。「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが表示されます。

7. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが表示されます。

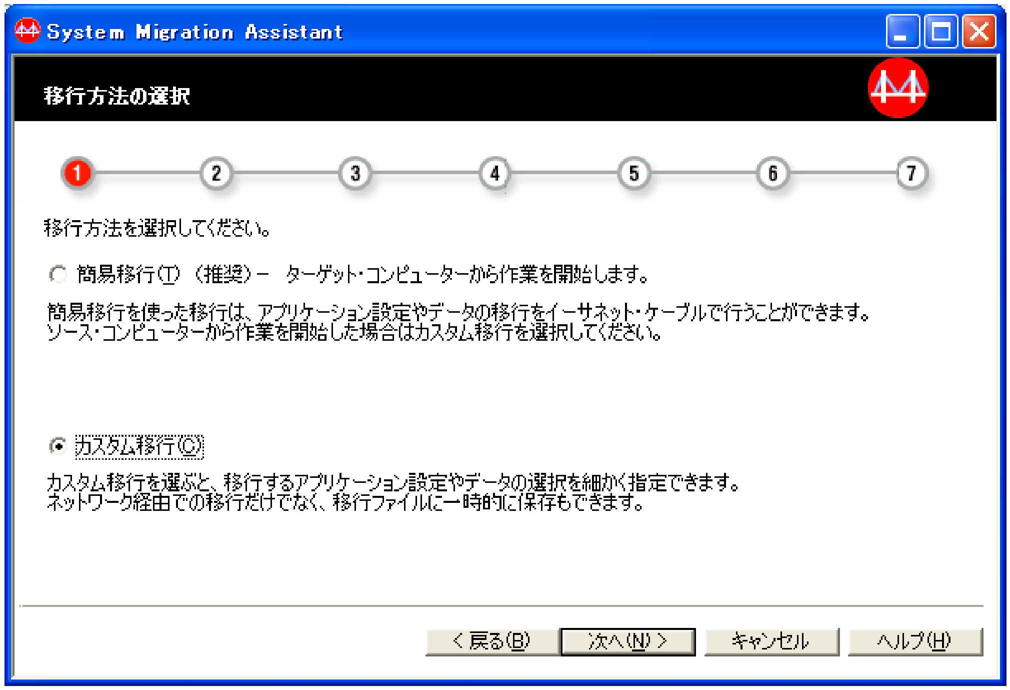


図 21. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「移行方法の選択」ウィンドウ

8. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが表示されます。

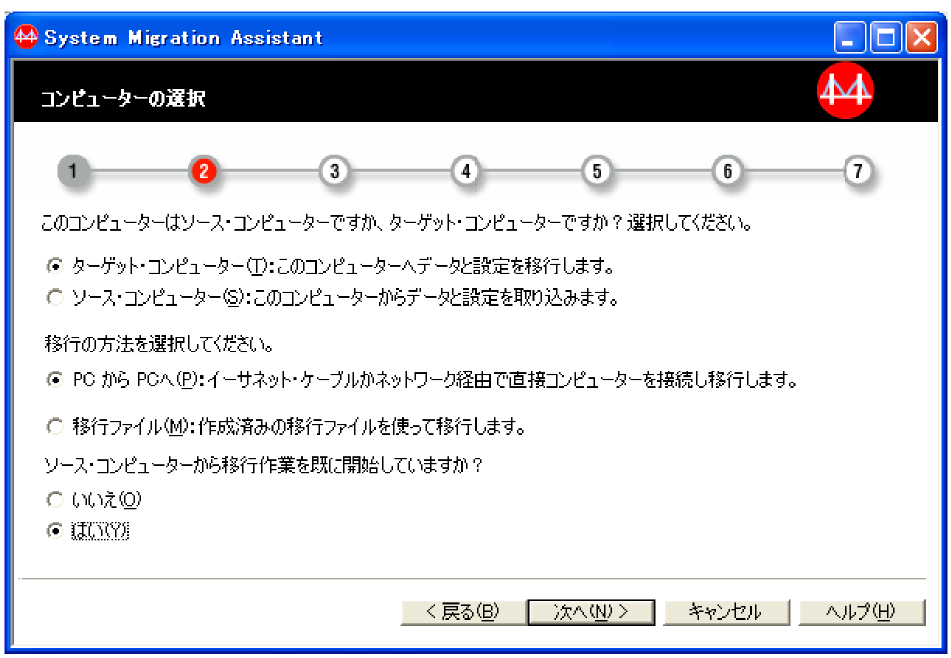


図 22. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「コンピューターの選択」ウィンドウ

9. 「**ターゲット・コンピューター**」、「**PC から PC へ**」と「**はい**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。「接続の開始」ウィンドウが表示されます。

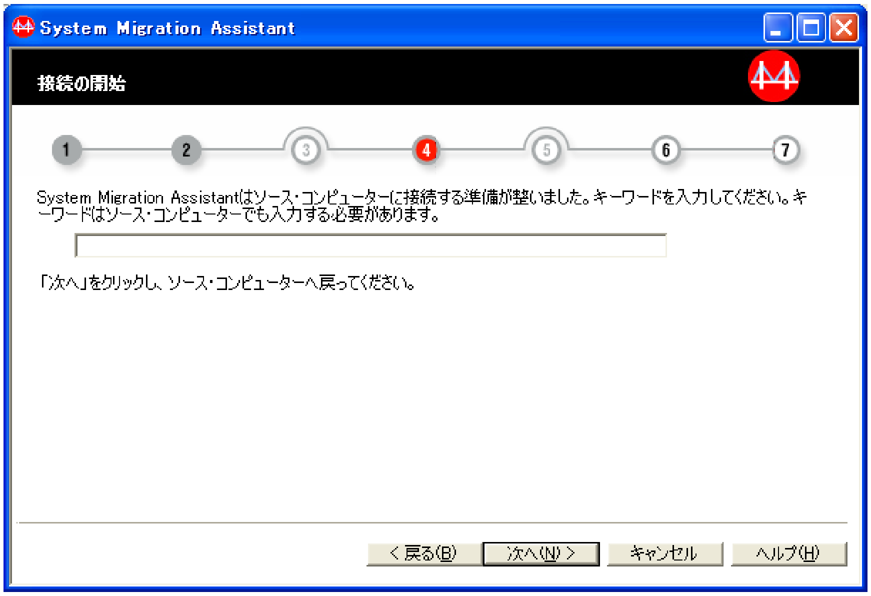


図 23. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「接続の開始」ウィンドウ

10. ターゲット・コンピューターのすべてのファイアウォールを使用不可に設定するか、SMA がネットワーク接続を確立できるようにファイアウォールを構成します。ファイアウォールの管理方法については、 11 ページの『ファイアウォールの管理』を参照してください。

11. 「**キーワード**」フィールドに、固有のキーワードを 40 文字以内で入力します。パスまたは特殊文字は含めないでください。このキーワードがソース・コンピューターを識別するのに使用されます。PC から PC への接続を開始するには、「**OK**」をクリックします。「接続中」ウィンドウが表示されます。

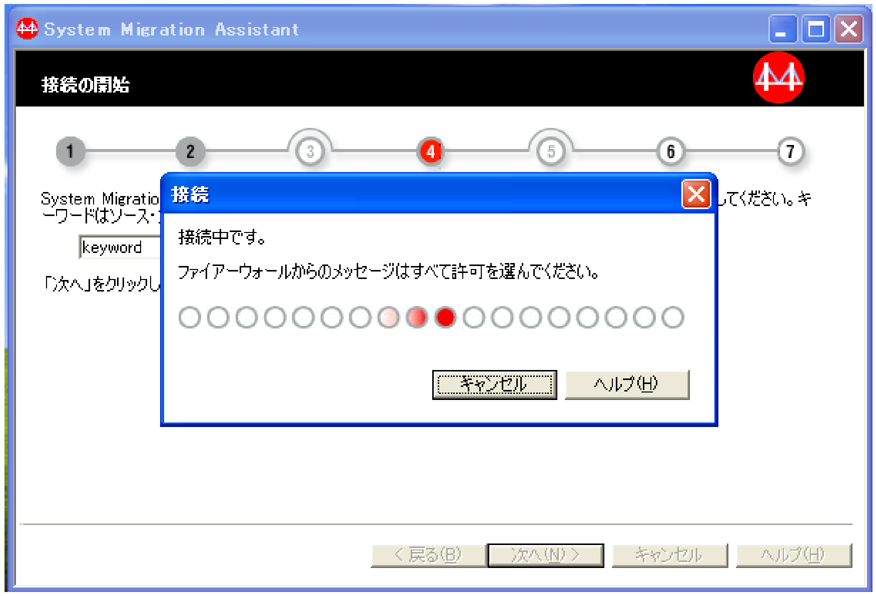


図 24. *PC から PC へのカスタム移行の開始: 「接続中」ウィンドウ*

12. ソース・コンピューターで「**次へ**」をクリックします。「キーワードの入力」ウィンドウが表示されます。

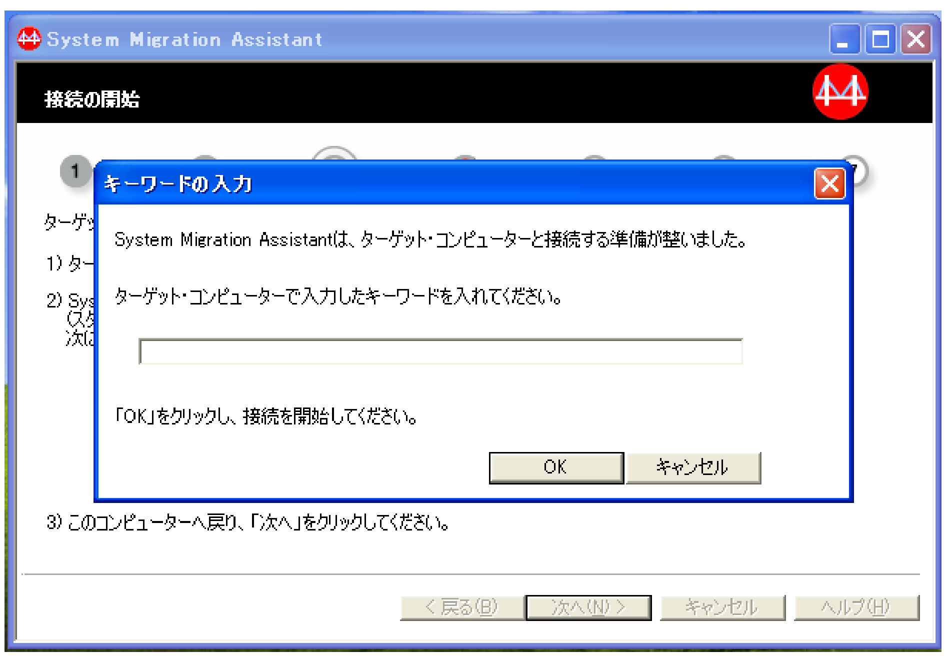


図 25. *PC から PC へのカスタム移行の開始: 「キーワードの入力」ウィンドウ*

13. キーワード・フィールドに、ターゲット・コンピューターに入力したものと同じキーワードを入力します。 PC から PC への移行を開始するには、「**OK**」をクリックします。「接続中」ウィンドウが表示されます。

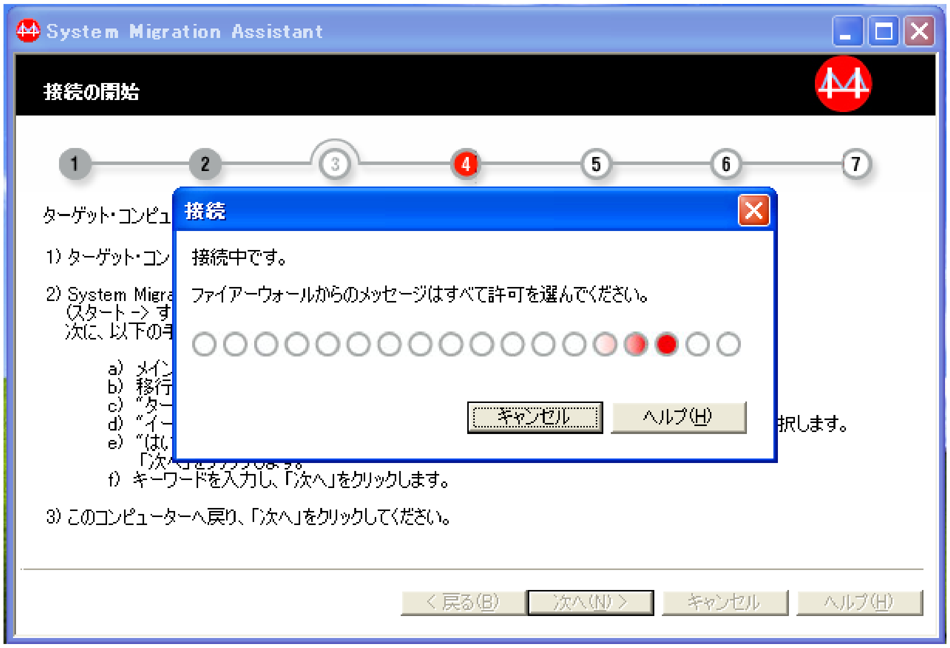


図 26. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「接続中」ウィンドウ

接続が確立されると、ターゲット・コンピューターに「待機中」ウィンドウが表示されます。

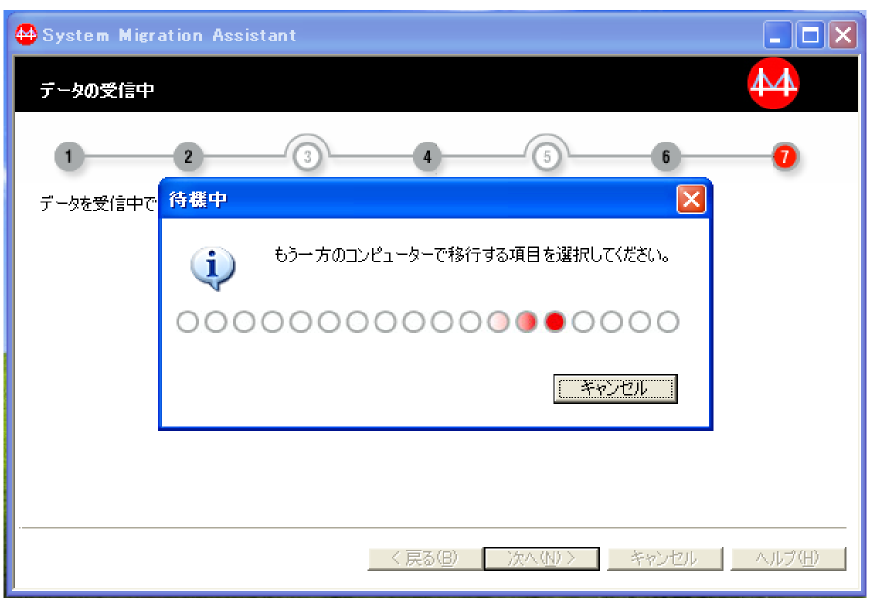


図 27. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「待機中」ウィンドウ

接続が確立されると、ソース・コンピューターに「移行オプション」ウィンドウが表示されます。

14. 移行したい設定とファイルを選択するか、デフォルト設定のままにします。カスタム移行のオプションについて詳しくは、 53 ページの『移行する設定の選択』を参照してください。
15. 移行する設定とファイルの選択が完了したら、「**次へ**」をクリックします。「確認」ウィンドウが開きます。

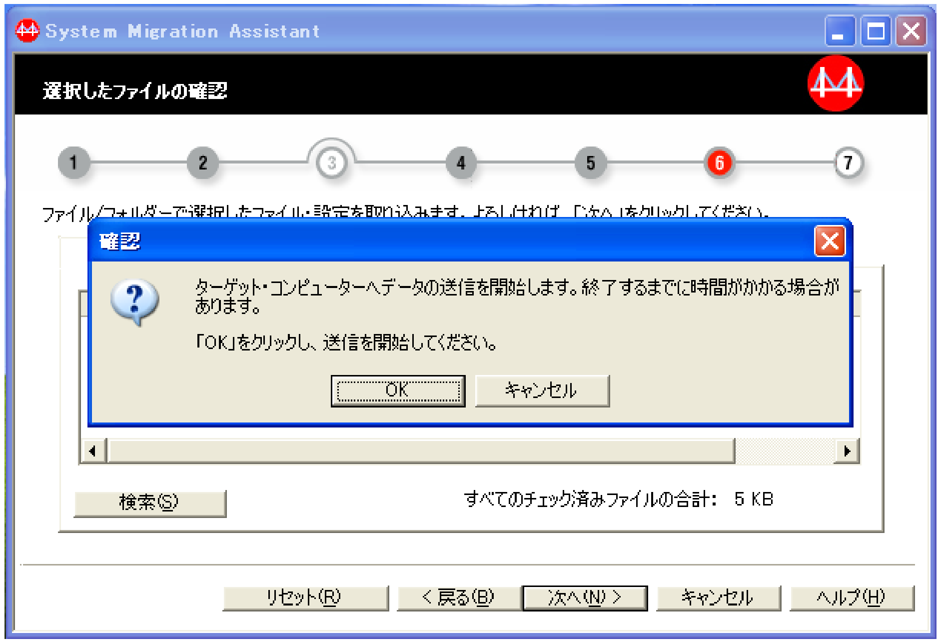


図 28. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「確認」ウィンドウ

16. 「**OK**」をクリックします。SMA は選択された設定とファイルを取り込み、それらをターゲット・コンピューターに送信し、適用します。 移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

重要: 「**キャンセル**」をクリックして適用プロセスを停止することができます。ただし、SMA による適用処理中の未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

設定とファイルの適用が終了すると、「移行サマリー」ウィンドウがソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で開きます。

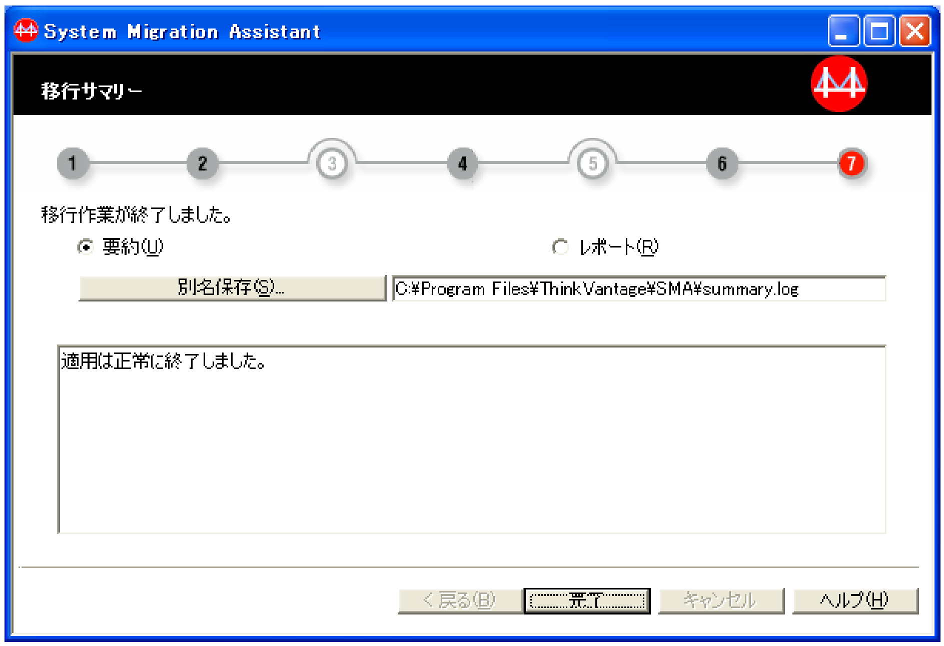


図 29. PC から PC へのカスタム移行の開始: 「移行サマリー」ウィンドウ

17. 要約またはレポート・ファイルを別の場所に保存するには、次のステップを完了します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保存...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
    c. ダイアログで場所とファイル名を指定してから「**保存**」をクリックします。
18. ターゲット・コンピューターとソース・コンピューターの両方で「**完了**」をクリックします。ターゲット・コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。「**OK**」をクリックすると、コンピューターが即時に再起動されます。

ファイル転送による移行

SMA 移行ファイルの取り込み

取り込みフェーズでは、ソース・コンピューターは移行される設定とファイルが入った SMA 移行ファイルを作成します。移行ファイルは、1 つ以上のターゲット・コンピューターに適用できます。

SMA 移行ファイルを作成するには、以下の手順を完了します。

注: 移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

1. ソース・コンピューターにログオンします。
2. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

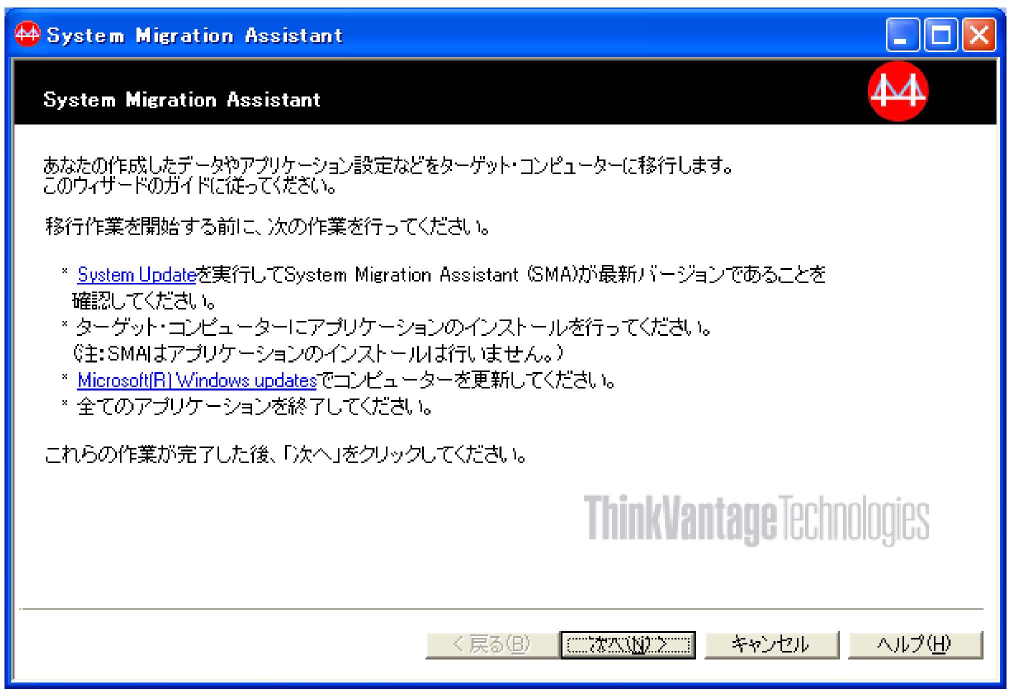


図 30. ファイル転送による移行: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが表示されます。

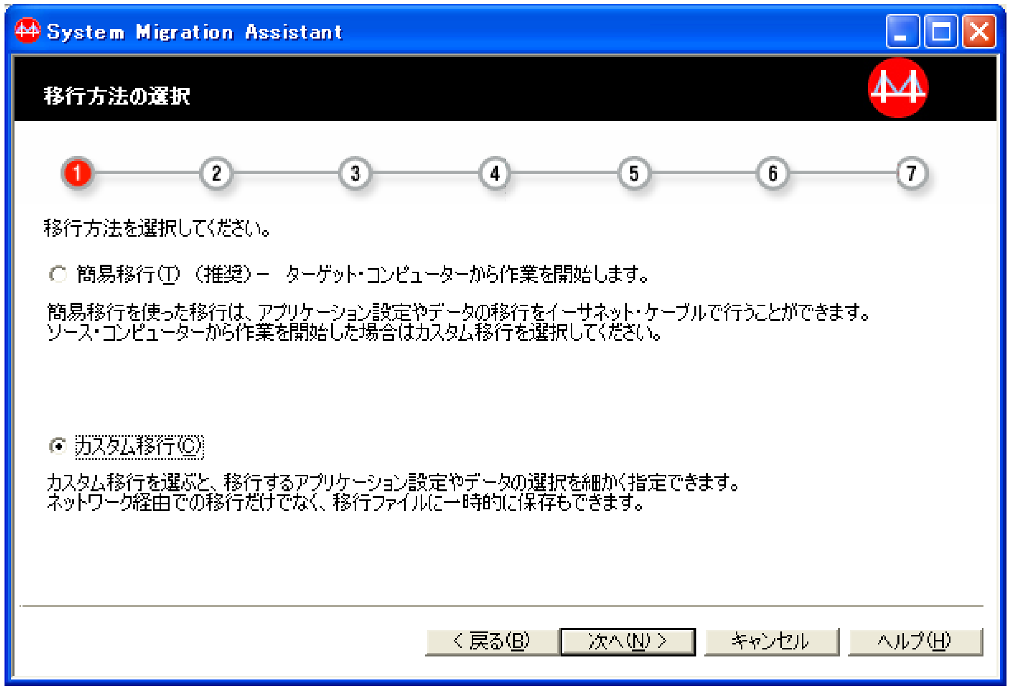


図 31. ファイル転送による移行: 「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 移行方法のタイプとして、「**カスタム移行**」を選択します。この移行方法を使用すると、SMA で、移行のためのアプリケーションとデータ設定をカスタマイズし、移行ファイルを取り込むことができます。

5. 「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが表示されます。

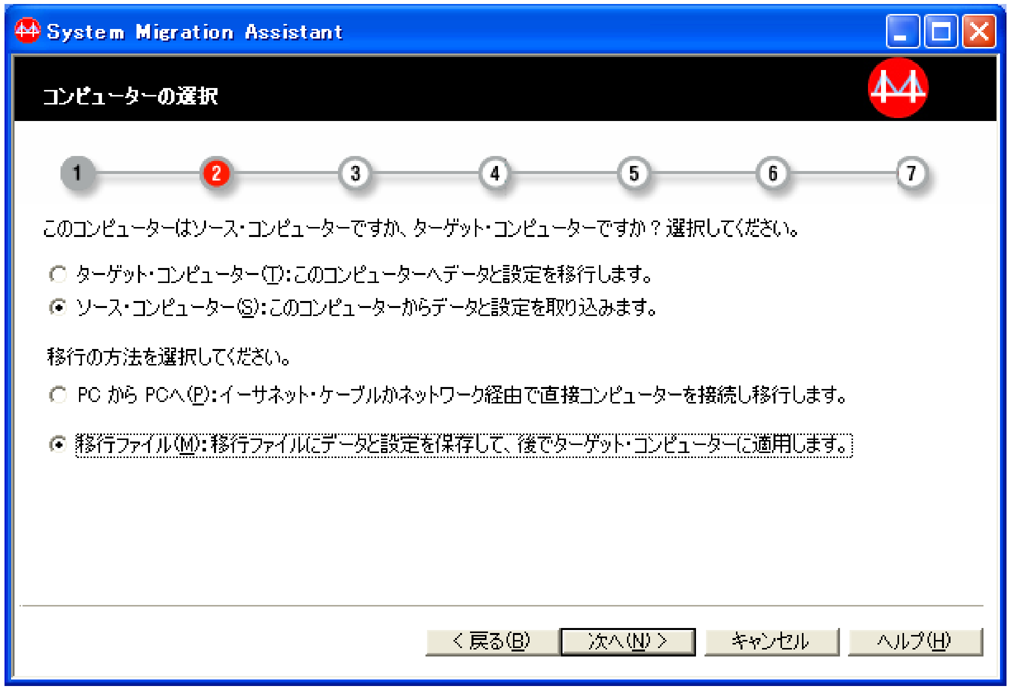


図 32. ファイル転送による移行: 「コンピューターの選択」ウィンドウ

6. 「**ソース・コンピューター**」および「**移行ファイル**」を選択します。
7. 「**次へ**」をクリックします。「移行項目の選択」ウィンドウが表示されます。
8. 移行したい設定とファイルを選択します。カスタム移行のオプションについて詳しくは、 53 ページの『移行する設定の選択』を参照してください。
9. 以下の手順のどちらかを完了します。
   - 「選択したファイルの確認」ウィンドウが表示された場合は、転送するファイルとフォルダーのすべてを選択します。このウィンドウは、「ファイルとフォルダー」カテゴリーを選択した場合に表示されます。ファイルとフォルダーの選択について詳しくは、 60 ページの『移行するファイルとフォルダーの選択』を参照してください。
   - 「選択したファイルの確認」ウィンドウが表示されない場合は、次のステップを続行します。

「確認」ウィンドウが表示されます。

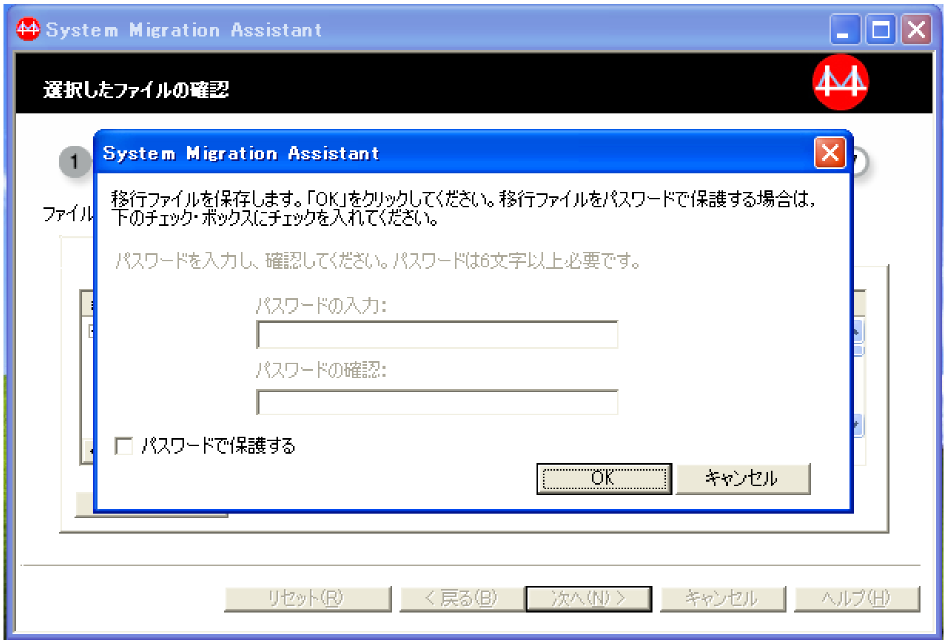


図 33. ファイル転送による移行: 「確認」ウィンドウ

10. SMA 移行ファイルをパスワードで保護するには、次の手順を実行します。パスワード保護はオプションです。
    a. 「**パスワードで保護する**」を選択します。
    b. 「**パスワードの入力**」フィールドにパスワードを入力します。パスワードの長さは 6 文字から 16 文字までとし、先頭または末尾に数字を指定することはできず、同一文字を連続して指定することもできません。
    c. 「**パスワードの確認**」フィールドにパスワードを再入力します。

11. 「**OK**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

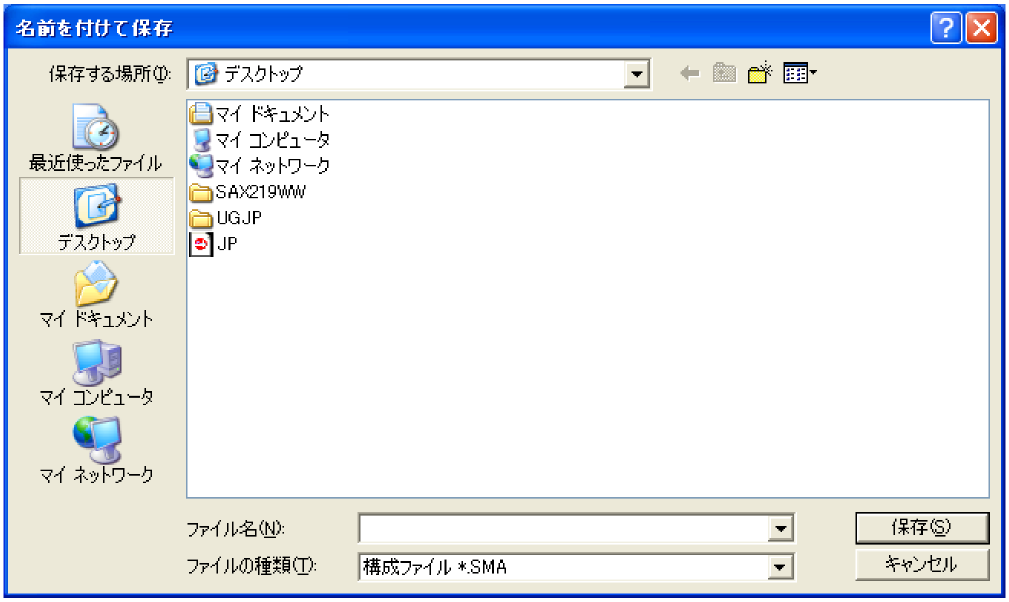


図 34. ファイル転送による移行: 「名前を付けて保存」ウィンドウ

12. 移行ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、移行ファイルの名前を入力します。その後、「**保存**」をクリックします。

注:

- 以下の移行ファイルが指定されたディレクトリーに作成されます。
  - *.sma : 基本移行ファイル
  - *.sma.DriveC : ドライブ C: 用の移行ファイル
  - *.sma.Drive*X* : ドライブ *X* 用の移行ファイル: (ユーザーがドライブ *X* 内の移行ファイルを選択したケースのみ)
- *d*:¥_SMA ディレクトリーは選択しないでください。ここで、*d*: は SMA がインストールされているドライブです。このディレクトリーは SMA が使用する一時フォルダーです。

「取り込み中」ウィンドウが表示されます。

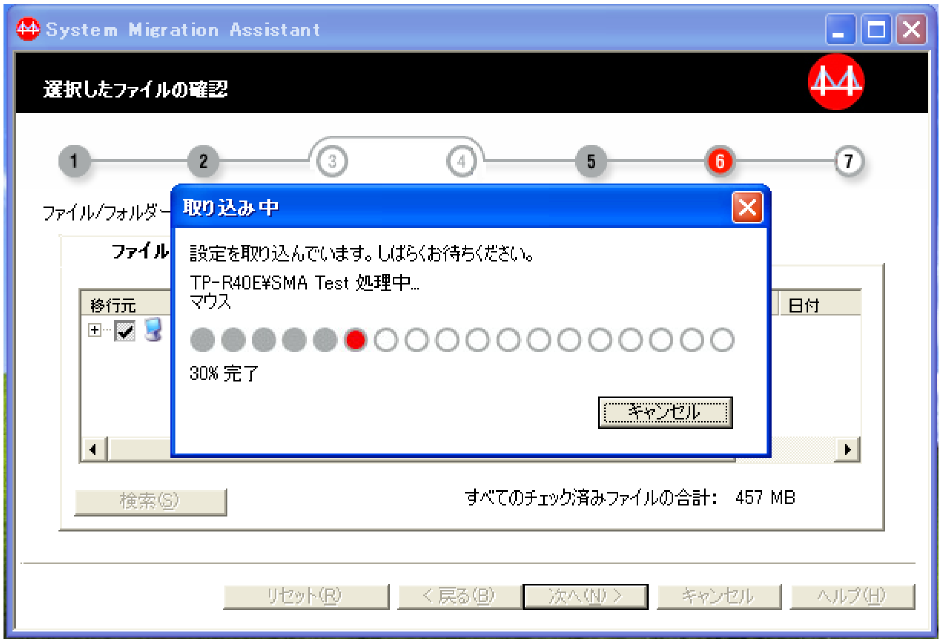


図 35. ファイル転送による移行: 「取り込み中」ウィンドウ

SMA が移行ファイルの取り込みを完了すると、「保存」ウィンドウが表示されます。 SMA は、設定とファイルを移行ファイルにコピーします。移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。



図 36. ファイル転送による移行: 「保存」ウィンドウ

移行ファイルの作成後、「移行サマリー」が表示されます。

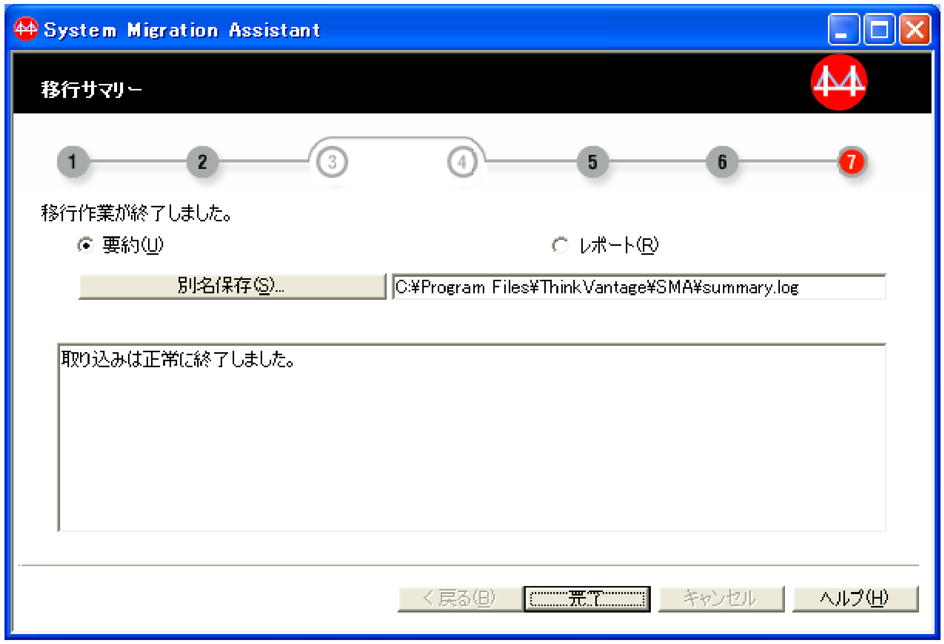


図 37. ファイル転送による移行: 「移行サマリー」ウィンドウ

13. 要約またはレポート・ファイルを、ウィンドウで指定されたディレクトリーとは別のディレクトリーに保存するには、次の手順を完了します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保存...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。
    c. ダイアログで場所とファイル名を指定してから「**保存**」をクリックします。
14. 「**完了**」をクリックします。

SMA 移行ファイルの適用

適用フェーズでは、移行される設定とファイルが入った SMA 移行ファイルをターゲット・コンピューターに適用します。

SMA 移行ファイルをターゲット・コンピューターに適用するには、以下の手順を完了します。

1. ターゲット・コンピューターにログオンします。

   注:

   ターゲット・コンピューターへのログオン時に使用するオペレーティング・システム・アカウントがソース・コンピューターで使用したものと異なっていると、アプリケーション固有の一部のユーザー設定が適用されない場合があります。

2. 移行ファイルをローカルのハード・ディスクにコピーします。

注: 移行ファイルには以下のファイルが入っています。

- *.sma : 基本移行ファイル
- *.sma.DriveC : ドライブ C: 用の移行ファイル
- *.sma.Drive*X* : ドライブ *X* 用の移行ファイル: (ユーザーがドライブ *X* 内の移行ファイルを選択したケースのみ)

3. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
4. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが表示されます。

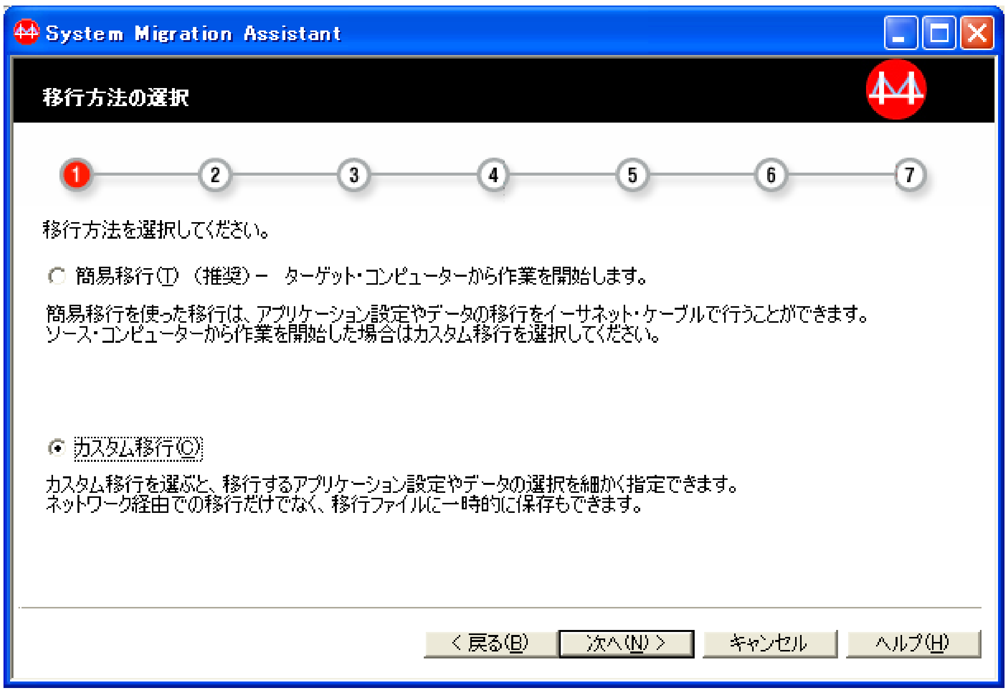


図 38. ファイル転送による移行: 「移行方法の選択」ウィンドウ

5. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。この移行方法を使用すると、SMA で、移行ファイルの取り込みと同時に、移行のためのアプリケーションとデータ設定をカスタマイズすることができます。「コンピューターの選択」ウィンドウが表示されます。



図 39. ファイル転送による移行: 「コンピューターの選択」ウィンドウ

6. 「**ターゲット・コンピューター**」および「**移行ファイル**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。「ファイルを開く」ウィンドウが表示されます。

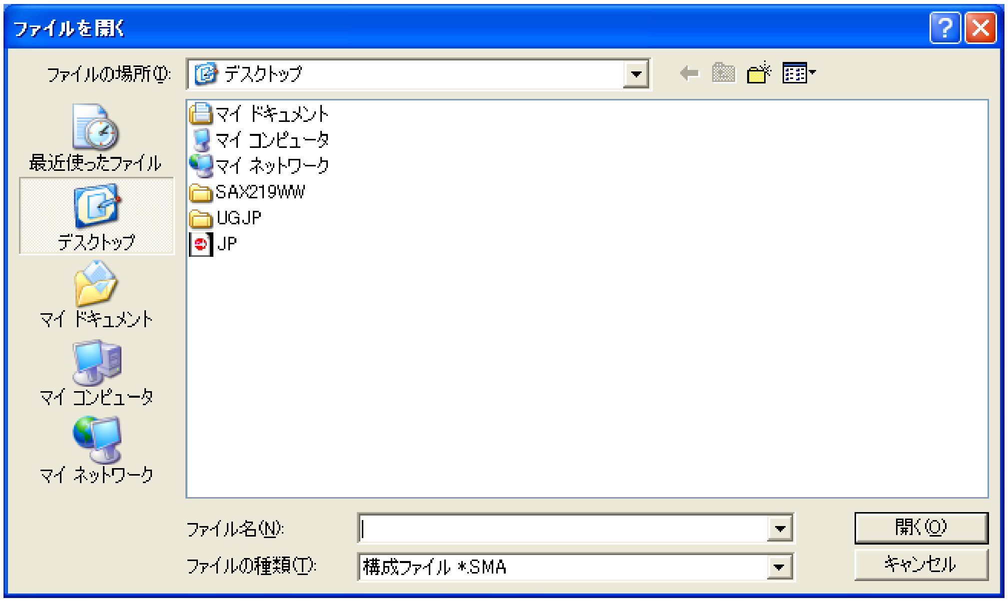


図 40. ファイル転送による移行: 「ファイルを開く」ウィンドウ

7. 移行ファイルが入っているディレクトリーにナビゲートします。移行ファイルを選択して、「**開く**」をクリックします。移行ファイルがパスワード保護されている場合は、「パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
8. 必要な場合、パスワードを入力します。「移行項目の選択」ウィンドウが表示されます。
9. 適用したい設定とファイルを選択します。カスタム移行の設定について詳しくは、 53 ページの『移行する設定の選択』を参照してください。ファイルとフォルダーの選択について詳しくは、 60 ページの『移行するファイルとフォルダーの選択』を参照してください。

10.　「確認」ウィンドウが表示されます。「**OK**」をクリックします。

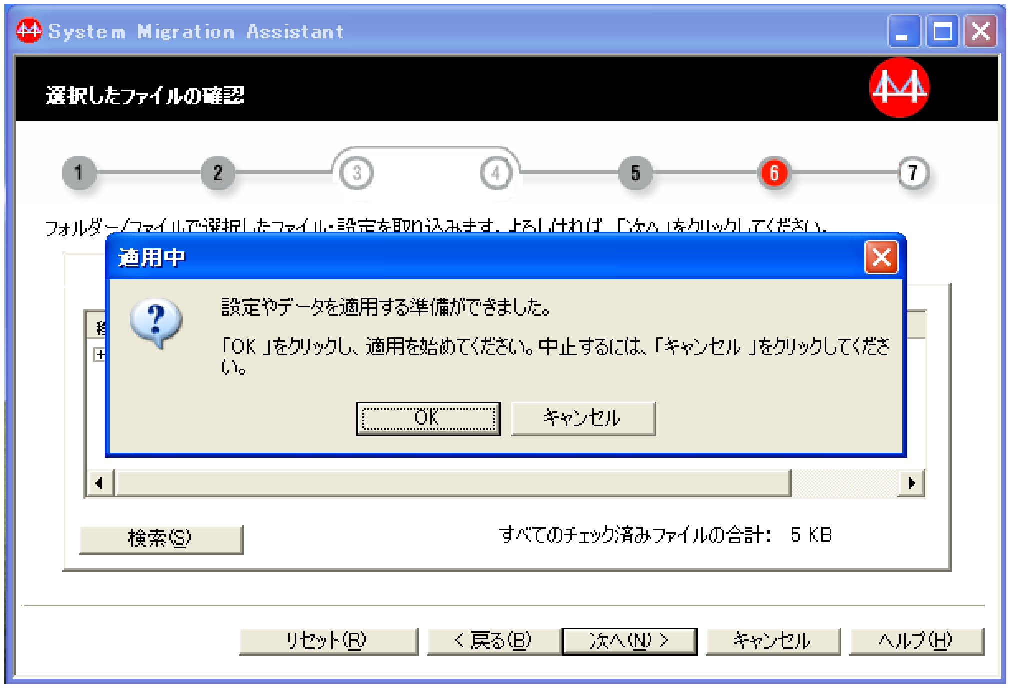


図 41. ファイル転送による移行:　「適用中」ウィンドウ

「適用中」ウィンドウが表示されます。



図 42. ファイル転送による移行:　「適用中」ウィンドウ

SMA は設定をターゲット・コンピューターに適用します。 適用する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

重要: 「**キャンセル**」をクリックして適用プロセスを停止することができます。ただし、SMA による適用処理中の未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

移行ファイルの適用後、ターゲット・コンピューターに「移行サマリー」が表示されます。

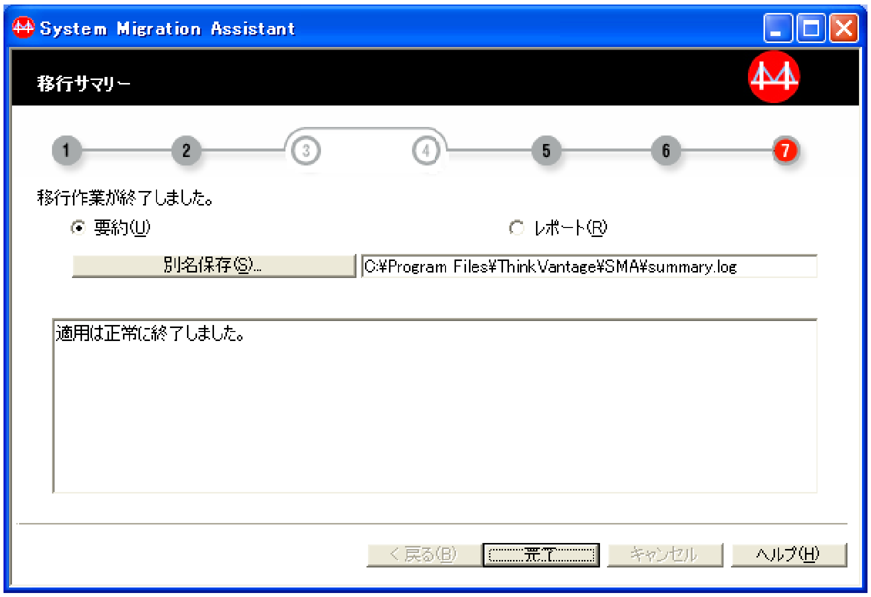


図 43. ファイル転送による移行: 「移行サマリー」ウィンドウ

11. 要約またはレポート・ファイルを保存するには、次のステップを完了します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保存...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。
    c. ダイアログで場所とファイル名を指定してから「**保存**」をクリックします。
12. 「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。
13. コンピューターを即時に再起動する場合は、「**OK**」をクリックします。

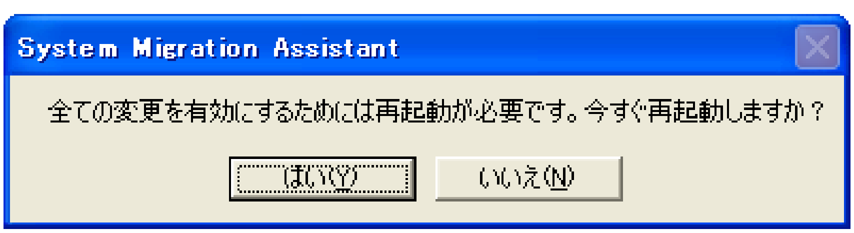


図 44. ファイル転送による移行: 「コンピューターの再起動」ウィンドウ

移行する設定の選択

以下の手順で、カスタム移行における移行項目の選択方法を示します。この手順は「移行項目の選択」ウィンドウから開始します。カスタム移行のについて詳しくは、 32 ページの『カスタム移行』を参照してください。

注: この手順が完了したら、実行している移行タイプの手順に戻り説明に従ってください。

1. 「移行項目の選択」ウィンドウで、移行のための設定のカテゴリーを選択します。
2. 「**次へ**」をクリックします。「**次へ**」をクリックするたびに、選択済みのカテゴリー・リストの次の項目がウィンドウに表示されます。例えば、「ユーザー・プロファイル」と「デスクトップ」が選択されている場合、最初にウィンドウに表示される項目はユーザー・プロファイルのリストで、移行のためにユーザー・プロファイルを選択して「**次へ**」をクリックすると、「デスクトップ」設定のリストが表示されます。
3. 選択済みの各カテゴリーの項目を選択し、それぞれのカテゴリーが完了するごとに「**次へ**」をクリックします。
   - **ユーザー・プロファイル**: 移行したいユーザー・プロファイルを選択します。ユーザー・プロファイルについて詳しくは、 7 ページの『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。 SMA は、プロファイルに保存されているユーザー指定の設定を移行します。 SBCS (1 バイト文字セット) ローカル・ユーザー・プロファイルをターゲット・コンピューターへ移行する場合、元のユーザー・パスワードは移行されずに、ユーザー名にリセットされます。 DBCS (2 バイト文字セット) ローカル・ユーザー・プロファイルをターゲット・コンピューターへ移行する場合、元のユーザー・パスワードは移行されずに、**Passw0rd** にリセットされます。



図 45. 移行する設定の選択: 「移行項目の選択」ウィンドウ

ユーザー・プロファイルの移行には以下の制約事項が適用されます。

– Windows 98 を実行しているソース・コンピューターから Windows 2000 Professional、Windows XP、または Windows Vista を実行しているターゲット・コンピューターにユーザー・プロファイルを移行することはできません。

– Windows 2000、Windows XP、および Windows Vista を実行しているコンピューターの場合: ユーザー・プロファイルを移行するには、使用するオペレーティング・システム・アカウントは管理特権を持っている必要があり、ローカルのセキュリティー・ポリシーで「**オペレーティング・システムの一部として機能する (Act as part of the operating system)**」特権が選択されている必要があります。この特権は、ユーザー・プロファイルをターゲット・コンピューターに移行する前に、手動で設定しておきます。

- **デスクトップ設定**: 移行したいデスクトップの設定を選択します。

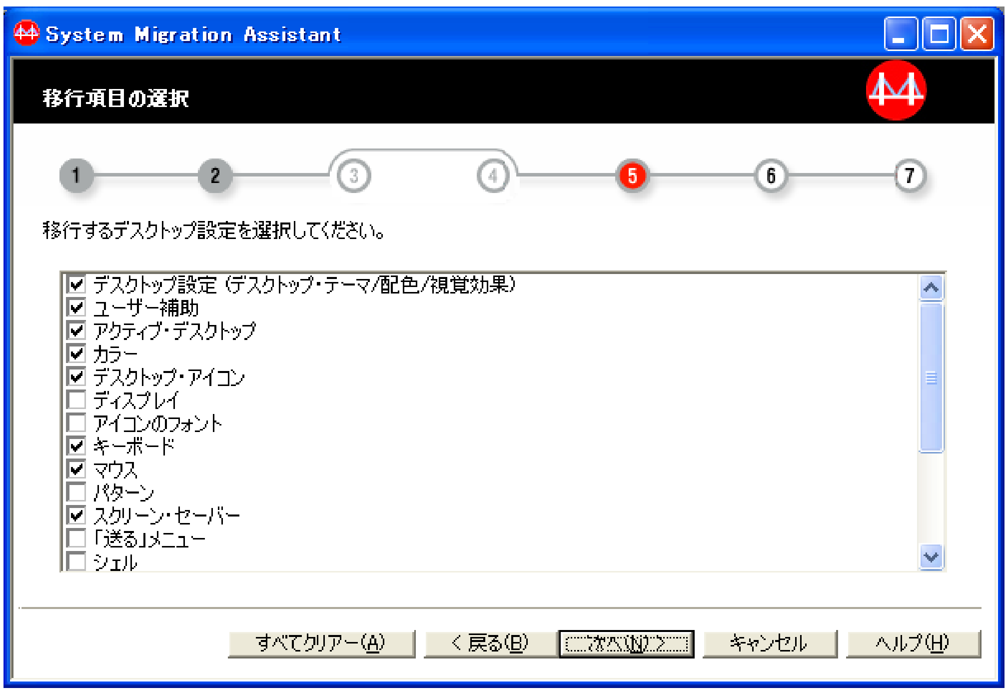


図 46. 移行する設定の選択: 「移行項目の選択」ウィンドウ

デスクトップ設定
　デスクトップ・テーマ、配色、視覚効果

ユーザー補助
　キーボード、サウンド、マウス、およびその他の設定に対するユーザー補助設定 (Windows コントロール・パネルのユーザー補助オプション、または Windows Vista コントロール・パネルのコンピューターの簡単操作センターを参照してください)

アクティブ・デスクトップ
　アクティブ・デスクトップ設定 (Windows XP Professional、Windows XP Home、Windows XP Tablet Edition、および Windows Vista ではサポートされません)

カラー デスクトップおよびウィンドウのカラー

デスクトップ・アイコン
すべてのデスクトップ・コンテンツ (フォルダー、ファイル、ショートカット、およびアイコンを含む)

注: アイコンの場所は移行されません。

ディスプレイ
デスクトップの幅と高さ

アイコンのフォント
デスクトップのアイコンに使用されるフォント

キーボード
キーボードの反復速度、カーソルの明滅間隔、および待ち時間

マウス マウスの右利きと左利きの設定、速度、およびダブルクリックの速度

パターン
デスクトップで使用するパターン (Windows XP Professional、Windows XP Home、Windows XP Tablet Edition、および Windows Vista ではサポートされません)

スクリーン・セーバー
現在のスクリーン・セーバー設定

「送る」メニュー
「送る」 メニューの設定

シェル 表示のソート順、表示のタイプ (大きいアイコンまたは小さいアイコン)、ステータス・バー、およびツールバーの表示/非表示の状況

サウンド
サウンドの設定

「スタート」メニュー
「スタート」 メニュー・コマンド

注: 移行されたアプリケーションのリンクは、アプリケーションのインストール場所がソース PC と異なる場合、ターゲット PC で正常に作動しないことがあります。

タスクバー
タスクバー・プロパティーの表示位置、サイズ、常に手前に表示、自動的に隠す、時計表示、小さいアイコンの表示、同様のタスクバーボタンのグループ化、タスクバーの位置 (Windows 98、Windows 98 Second Edition (SE)、および Windows NT 4.0 Workstation ではサポートされません)

タイム・ゾーン
タイム・ゾーンの設定

壁紙 デスクトップの壁紙

ウィンドウ・サイズ
最小化ウィンドウのスペーシングと配置、メッセージのフォント、メニュー・サイズ、およびスクロール・バーのサイズ

注:

デスクトップ設定には以下の制約事項が適用されます。

ユーザー補助
: ShowSounds、SoundSentry、および Stickykeys 設定は、Windows 98 から Windows 2000 Professional には移行できません。

アクティブ・デスクトップ
: 壁紙を含むアクティブ・デスクトップを移行するには、壁紙の設定も選択しなければなりません。

カラー カラー設定は、Windows Vista 上の適用フェーズで作成されたバックグラウンド・ユーザーには移行されません。

デスクトップ・アイコン

- アイコンの場所は移行されません。
- 現行ユーザーのデスクトップ・ディレクトリーに入っているアイコンだけが移行されます。

スクリーン・セーバー
: Windows 98 から Windows 2000 Professional、Windows XP、または Windows Vista に移行している場合は、スクリーン・セーバーの移行はできません。

シェル Windows Explorer シェルの設定を移行するには、シェルのデスクトップ設定と Microsoft(R) Internet Explorer アプリケーションの設定を両方とも移行しなければなりません。ターゲット・コンピューターが Windows 2000 Professional、Windows XP、または Windows Vista を使用している場合は、フォルダー表示の設定 (例えば、大きいアイコン、タイル、詳細など) は移行されません。

サウンド
: SMA は、アクティブ・サウンド・スキームをソース・コンピューターからターゲット・コンピューターに移行します。 サウンド・スキームは、Windows コントロール パネルの「サウンドとマルチメディアのプロパティ」ウィンドウで設定されます。ソース・コンピューターでカスタム・サウンドが使用されている場合は、サウンド・ファイルをサウンド・スキームと一緒に移行する必要があります。ソース・コンピューターがカスタム・サウンドを使用していて、ターゲット・コンピューターが Windows Vista システムの場合、ソース・コンピューターでカスタム・サウンドをスキーム名で保存する必要があり、そうしないとターゲットの Vista システムに移行されません。

壁紙 移行したい壁紙が JPEG ファイルの場合は、「アクティブ デスクトップ設定」も取り込む必要があります。 BMP ファイルの壁紙を移行する場合は、「アクティブ デスクトップ設定」を取り込む必要はありません。

- **アプリケーション設定**: 設定を移行するアプリケーションを選択します。

  SMA は、ユーザー設定とカスタマイズ情報を取り込むことができます。Internet Explorer および Netscape Navigator のカスタマイズ情報には、そのアプリケーションのバージョンにより、ブックマーク、 cookies、および設定が含まれることがあります。Lotus Notes および Microsoft Outlook の場合は、これらの設定には、アドレス帳とローカルに保存された E メールが含まれることがあります。



図 47. 移行する設定の選択: 「移行項目の選択」ウィンドウ

ターゲット・マシンにインストールされたアプリケーションのバージョンが、ソース・マシンにインストールされたバージョンより前の場合、アプリケーションの設定は移行されません。

アプリケーション設定の移行について詳しくは、 65 ページの『付録 A. 移行可能なアプリケーション設定』を参照してください。

- **ネットワーク設定**: 移行したいネットワークの設定を選択します。



図 48. 移行する設定の選択: 「移行項目の選択」ウィンドウ

TCP/IP 構成

- IP / サブネット / ゲートウェイ
- DNS 構成
- WINS 構成

注: Windows Vista システムの場合、TCP/IPv4 および TCP/IPv6 の両方が移行されます。

ネットワーク識別

- コンピューター名
- コンピューターの説明
- ドメイン / ワークグループ

その他

- マップされたドライブ
- ダイヤルアップ・ネットワーク
- 共用フォルダー / ドライブ
- ODBC データ・ソース

ネットワーク設定には以下の制約事項が適用されます。

- **ドメイン/ワークグループ:** ソース・コンピューターがドメインのメンバーであり、ターゲット・コンピューターをこの同じドメインのメンバーにしたい場合は、ドメイン・コントローラーにターゲット・コンピューター用のアカウントを作成します。ドメイン・コントローラーが Windows 2000

Server を実行している場合は、「**Windows 2000 以前のコンピューターにこのアカウントの使用を許可する**」チェック・ボックスを選択してください。

- **プリンター設定**: 移行するドライバーと設定のプリンターを選択します。 デフォルト・プリンターは自動的に選択されます。サポートされているプリンターだけが表示されます。

  デバイス・ドライバーがソース・コンピューターに手動でインストールされたプリンターを選択した場合は、移行前にターゲット・コンピューターに同じデバイス・ドライバーをインストールしてください。

  デフォルトでは、LPR ポート・プリンターは移行できません。プリンター設定の移行についての詳細は、「*ThinkVantage System Migration Assistant v.5.2* デプロイメント・ガイド」を参照してください。

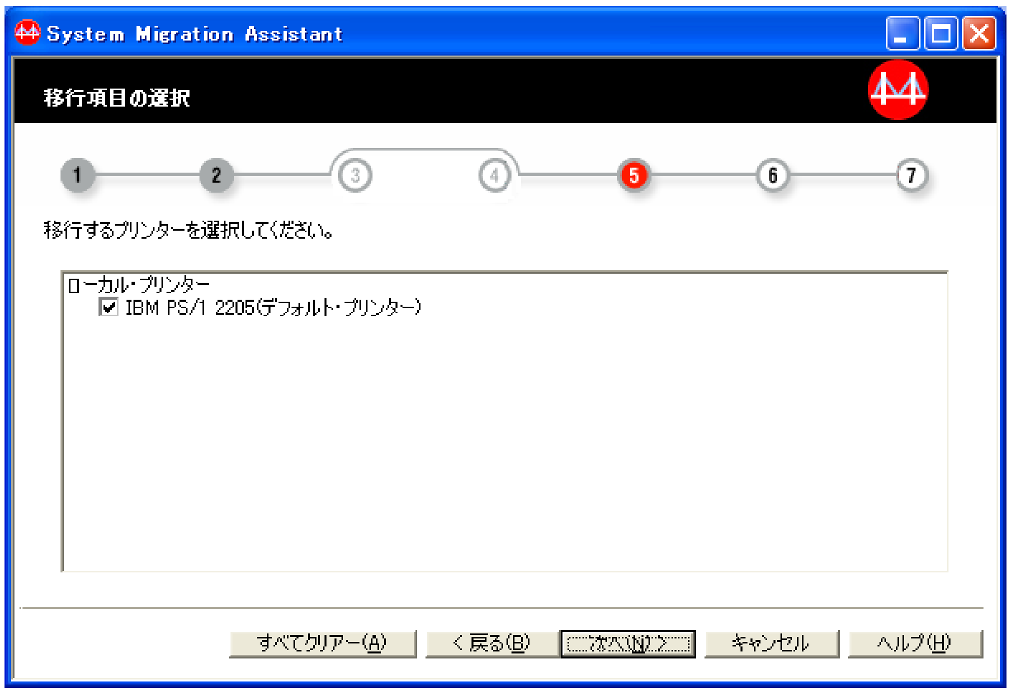


図 49. 移行する設定の選択: 「移行項目の選択」ウィンドウ

- **ファイルとフォルダー**: 「ファイルとフォルダー」カテゴリーについては、60 ページの『移行するファイルとフォルダーの選択』を参照してください。

4. すべての移行カテゴリーが完了したら、「**次へ**」をクリックします。
5. 実行している移行のタイプの手順に戻ります。

移行するファイルとフォルダーの選択

以下の手順で、移行するファイルとフォルダーの選択方法を示します。この手順は「ファイル選択の確認」ウィンドウから開始します。「ファイル選択の確認」ウィンドウが表示される前に、SMA はスキャンしていること、次にファイル・リストを作成していることを表示します。これには数分かかることがあります。カスタム移行でファイルとフォルダーを選択しなかった場合は、「ファイル選択の確認」ウィンドウは表示されません。

注: この手順が完了したら、実行している移行タイプの手順に戻り説明に従ってください。

移行するファイルとフォルダーを選択するには、以下の手順を完了します。

1. 移行したいファイルを選択します。ファイルを個々に選択することもできますが、特定のタイプのすべてのファイル、または選択したディレクトリー内のすべてのファイルを一括して選択することもできます。 ディレクトリーを選択すると、そのディレクトリーに入っているすべてのファイルが自動的に選択されます。

   「ファイル / フォルダー」タブには、ソース・コンピューター上のファイルが、場所順にソートされてリストされます。
2. タイプ別にソートされたファイルを表示するには、「**ファイル・タイプ**」をクリックします。「ファイル・タイプ」タブが表示されます。特定のタイプのファイルをすべて選択することもできますが、ファイル・タイプを展開して個々のファイルを選択することもできます。



図 50. 移行するファイルとフォルダーの選択: 「ファイル選択の確認」ウィンドウの「ファイル・タイプ」タブ

3. 特定のファイルまたはファイル拡張子を検索するには、「**検索**」をクリックします。「検索」ウィンドウが表示されます。

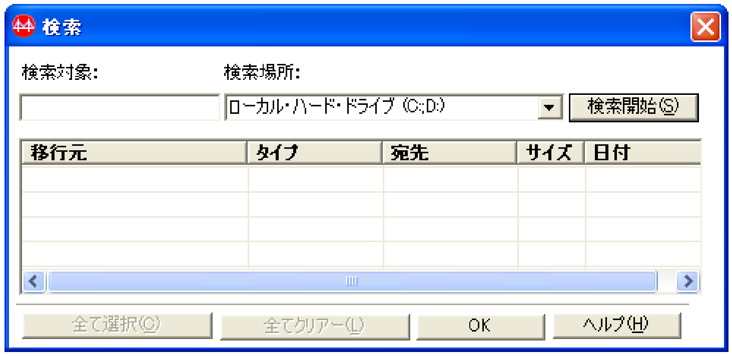


図 51. 移行するファイルとフォルダーの選択: 「検索」ウィンドウ

4. 「**検索対象**」フィールドにファイル名を入力します。ゼロ以上の文字を表すアスタリスク (*) と、正確に 1 文字を表す疑問符 (?) などのワイルドカード文字を使用することができます。「**検索場所**」フィールドで、検索したいハード・ディスクを選択します。「**検索開始**」をクリックします。

   重要:

   - オペレーティング・システム・ファイルを移行しないでください。移行すると、ターゲット・コンピューターの誤動作を招く原因になることがあります。
   - ハード・ディスクの内容全体を選択しないでください。内容全体を選択すると、オペレーティング・システム・ファイルを含め、すべてのファイルが選択されてしまうためです。
   - 拡張子が DLL、EXE、または COM のファイルを選択するときは注意が必要です。SMA は、Windows レジストリー項目を調整しません。アプリケーション・ファイルを選択すると、アプリケーションがターゲット・コンピューターで正しく稼働しないことがあります。

5. 選択したファイルをターゲット・システムのどこに保存するかを検討してください。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのハード・ディスクの構成が違う場合は、ファイルとディレクトリー用に代替宛先を選択する必要があります。

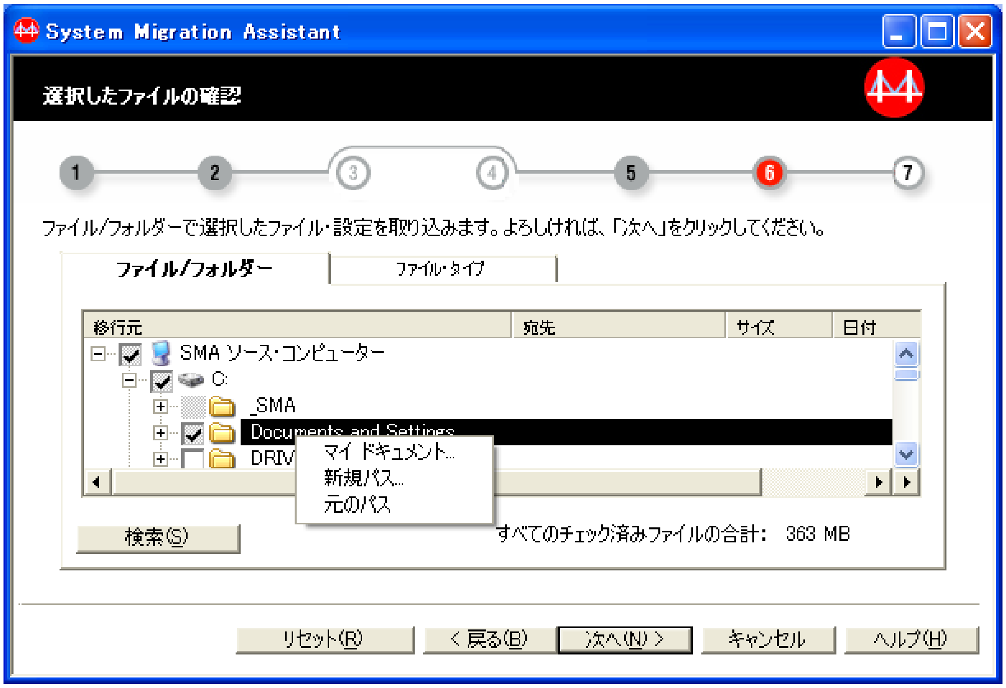


図 52. 移行するファイルとフォルダーの選択: 「ファイル選択の確認」ウィンドウ

ファイルの宛先ロケーションを変更するには、そのファイル名を右クリックします。メニューが表示されます。ファイルを「マイ ドキュメント」ディレクトリーに保存し、新規のパスを指定するか、元のパスをそのまま保持することができます。

- ファイルを「マイ ドキュメント」ディレクトリーに保存するには、「 **マイ ドキュメント**」をクリックします。「マイ ドキュメントの宛先」ウィンドウが表示されます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

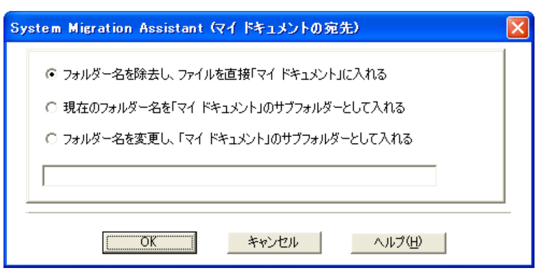


図 53. 移行するファイルとフォルダーの選択: 「マイ ドキュメントの宛先」ウィンドウ

- ファイルの代替パスを選択するには、「**新規パス**」をクリックします。「新規パスの宛先」ウィンドウが表示されます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

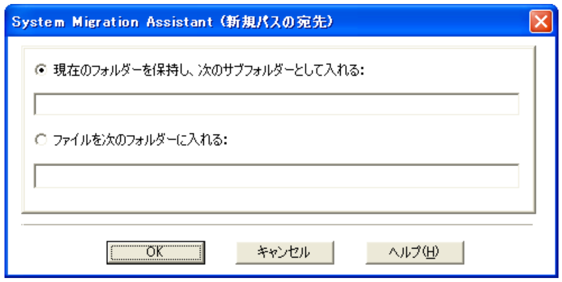


図 54. 移行するファイルとフォルダーの選択: 「新規パスの宛先」ウィンドウ

- ファイルのオリジナル・パスを保持するには、「**元のパス**」をクリックします。デフォルトでは、SMA で、ファイルがそれと同じ名前のファイルがあるディレクトリーに移行されると、移行される側のファイルによって古いファイルが上書きされます。 (ファイルが上書きされないように config.ini ファイルをカスタマイズすることができます。詳しくは、「*ThinkVantage System Migration Assistant* デプロイメント・ガイド」を参照してください)。

重要: ファイルの位置を変更するときは注意してください。バッチおよび構成ファイルには、完全修飾パス名が入っていることがあります。バッチ・ファイルと構成ファイルが参照するファイルとディレクトリーの位置を変更すると、プログラムまたはタスクは正常に稼働しません。

6. 移行するファイルとフォルダーを選択したら、「**次へ**」をクリックします。
7. 実行している移行のタイプの手順に戻ります。

付録 A. 移行可能なアプリケーション設定

この付録では、SMA で移行できるアプリケーションと設定をリストしています。オペレーティング・システム、移行シナリオ、およびソース・マシンとターゲット・マシンのアプリケーション・バージョンの違いなどによって、異なる結果が生じる可能性があります。ユーザー設定を含むファイルをデフォルト・フォルダー以外の場所に保存すると、アプリケーション設定が正しく移行されない場合があります。こうした場合、最初にご使用の環境に従ってアプリケーション・ファイルを編集し、その後にアプリケーション設定を移行するようにしてください。

ソース PC とターゲット PC に違うバージョンのアプリケーションがインストールされている場合は、ターゲット PC のバージョンの方が新しいことが必要です。

表 4. 移行可能なアプリケーション設定

アプリケーション	設定	注記
ThinkVantage Access Connections バージョン 3.x および 4.x	ロケーション・プロファイル	
ThinkVantage Client Security Solution バージョン 7.0 および 8.0	• パスフレーズおよび Windows ログオン・パスワード • Policy Manager の設定 • パスワード・マネージャー – パスワード・マネージャーの項目 – 設定 • Private Disk – Private Disk ボリューム – Private Disk の設定	システム・ドライブの Private Disk ファイルだけが移行できます。 Private Disk がマウントされていると SMA を使用した移行は実行できません。移行を始める前にすべての Private Disks をアンマウントしてください。Private Disk のアンマウント方法については、ThinkVantage Client Security Solution のヘルプを参照してください。 ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、Private Disk は正しく移行されません。
ThinkVantage Fingerprint Software バージョン 5.5 および 5.6	• パスポート・データ • ログオン • セキュリティー・モード • サウンド • Bio (バージョン 5.6 のみ) • 電源オン・セキュリティー (バージョン 5.6 のみ)	移行済みの Fingerprint Software のデータを正しく使用するためには、Windows のログオン・パスワードをソース・システムの Windows ログオン・パスワードと同じになるように再設定する必要があります。
ThinkVantage Rescue and Recovery v.1.0、2.0、3.0、3.1、および 4.0	• バックアップのファイル・リストの組み込みと除外 • バックアップ・スケジュール	

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
ThinkVantage System Update v.1.0、2.0、および 3.0	更新のスケジュール	
Adobe Acrobat Reader 5.x、6.x、7.x	• アクセシビリティ • 注釈 • ユーザー情報 • フルスクリーン・モード • アップデート • Web Buy	Adobe Acrobat Reader 5.0 から Adobe Reader 6.0 または 7.0 に移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
Adobe Illustrator 12.0	• 透明度フラットナー事前設定 • トレース事前設定 • プリンター事前設定 • キーボード・ショートカット • 設定 / 一般 • 設定 / タイプ • 設定 / 単位および表示性能 • 設定 / ガイドおよびグリッド • 設定 / スマート・ガイドおよびスライス • 設定 / ハイフン処理 • 設定 / プラグインおよびスクラッチ・ディスク • 設定 / ファイルの取り扱いおよびクリップボード (「Enable Version Cue」は移行できません) • 設定 / 黒色の外観処理 • エンベロープ変更 / エンベロープ・オプション • ライブ・ペイント / ギャップ・オプション • ライブ・トレース / トレース・オプション • テキスト折り返し / テキスト折り返しオプション • ワークスペース / ワークスペース管理	

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Adobe Pagemaker 7.0	• 文書のセットアップ • 設定 • ポリゴン設定 • 丸められたコーナー (Rounded corners) • リンク・オプション	
Adobe Photoshop 8.0	• 色設定 • キーボード・ショートカット • 設定 • 校正セットアップ (Proof Setup) • Show/Show Extra Options	
AT&T Network Client 5.0	• 一般 • 拡張電話設定	
Corel Presentations 12.0	• ワークスペース・マネージャー • 設定	
Corel Quattro Pro 12.0	• ワークスペース・マネージャー • 表示 • 設定	
Corel WordPerfect 12.0	• ワークスペース・マネージャー • 設定	
Google Desktop 4.2	• Desktop Use Habit/Local Index • Desktop Use Habit/Display • Desktop Use Habit/Others	
Google Earth 4.0	• PlaceMark • オプション • ウィンドウ位置	

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
IBM Global Network® Dialer 4.0 Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server で稼働するターゲット・コンピューターのみをサポートします。	• アクセス • 外観 • プログラム • ブラウザー • メール • ニュース • サーバー	
Lotus Notes バージョン 4.x、5.x、6.x、および 7.x	• ショートカット • 基本 • 国際 (International) • メールおよびニュース • ロケーション設定 • サーバー • メール • 複製設定 • デスクトップ • ID ファイル • INI ファイル • アドレス帳	異なるバージョン間で移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
Lotus Organizer® バージョン 6.0	• To Do プリファレンス • 環境 • アラーム • 祝日の設定 • 記念日	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます。 Lotus Notes は例外です。 良い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Lotus¥Wordpro¥ • C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Program files¥Wordpro¥ • D:¥Lotus¥Organizer¥

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Lotus SmartSuite® for Windows バージョン 9.8	• アプローチ – 表示 – グリッド – 設計の表示 (Show in design) – デフォルト・ソートの維持 – データベース – 表示 – ナビゲーション – データ • Freelance Graphics® – グリッド – 設定 – ビュー • Lotus 1-2-3® – 一般 – 新規ワークブック・デフォルト – 再計算 – 互換メニュー – ビュー – 一般 – セキュリティー – 表示 / 非表示 • Word Pro – 一般 – ロケーション – 個人情報 – 一般使用 – パフォーマンス – ビュー – 設定 • SmartCenter – フォルダー・オプション (カラーおよびアイコン)	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます。 Lotus Notes は例外です。 良い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Lotus¥Wordpro¥ • C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Program files¥Wordpro¥ • D:¥Lotus¥Organizer¥ 「設定」内の「場所」の設定は移行されません。

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
McAfee VirusScan バージョン 7.0 および 8.0	• システム・スキャン/アクション • システム・スキャン/レポート • システム・スキャン/除外 • E メール・スキャン/検出 • E メール・スキャン/アクション • E メール・スキャン/アラート • E メール・スキャン/レポート • スクリプト・ストッパー	McAfee VirusScan バージョン 7.0 からバージョン 8.0 への移行はサポートされていません。
Microsoft Access バージョン 2000、2003、XP、および 2007	• ツールバー • オプション • ビュー • 一般 • 検索 • キーボード • データ・シート • レポート作成 • 拡張オプション • 照会	
Microsoft Internet Explorerバージョン 5.0、5.5、6.0、および 7.0	• お気に入り • 表示 • オプション • ヒストリー • アクセシビリティ	
Microsoft NetMeeting バージョン 2.x および 3.x	• ビュー • 一般 • 呼び出し • 拡張呼び出しオプション • セキュリティー	
Microsoft Office バージョン 97、2000、2003、XP、および 2007 (Excel、PowerPoint、および Word)	• ツールバー • オプション • テンプレート • 保存オプション • ユーザー情報 (ツール・オプションの下)	ソース・コンピューターの Microsoft Office のバージョンがターゲット・コンピューターのバージョンと異なる場合、Word および PowerPoint アプリケーションのツールバーとテンプレートの設定は移行されません。 「オプション」設定の「互換性」の設定は移行されません。

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

<table>
<tr><th>アプリケーション</th><th>設定</th><th>注記</th></tr>
<tr><td>Microsoft Office 2003 Publisher 11.0、Microsoft Office 2007 Publisher 12.0</td><td>• ウィンドウ位置
• プライバシー・オプション
• プリンターおよび用紙 / ポケベル設定</td><td></td></tr>
<tr><td>Microsoft Outlook バージョン 98、2000、2003、XP、および 2007</td><td>• ツールバー
• ビュー
• カスタマイズ・オプション
• アドレス帳
• アカウント
• 設定/E メール・オプション
• トラッキング・オプション
• カレンダー・オプション
• メール・デリバリー
• リソース・スケジューリング</td><td>Microsoft Outlook と Internet Explorer は同時に移行してください。 Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。

Microsoft Outlook が Windows 98 または NT 4.0 から Windows 2000 または Windows XP に移行された場合、またはターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、次の操作を行ってから、ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動してください。
1. 「コントロール パネル」を開きます。
2. 「フォルダー オプション」をダブルクリックします。
3. 「表示」タブを選択します。
4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。
5. 「OK」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。
6. 「コントロール パネル」で「メール」をダブルクリックします。
7. 「データ・ファイル」をクリックします。
8. 「設定」をクリックします。
9. Outlook.pst が無効のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
10. 次のディレクトリーに進みます。
C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥
Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Outlook
と進み、Outlook.pst を選択します。
(%USERNAME% は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。)
11. 「メールのセットアップ」を閉じます。
12. Microsoft Outlook を始動します。

ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動する前にこの手順を完了していない場合は、Microsoft Microsoft Outlook を移行し直し、あらためてこの手順を実行しなければならなくなります。</td></tr>
</table>

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook Express バージョン 5.x および 6.x / Microsoft Windows Mail	• 一般 • メール送信フォーマット • ニュース送信フォーマット • 送信 • 読み取り • セキュリティー • 拡張オプション • アドレス帳	Microsoft Outlook Express と Internet Explorer は同時に移行してください。Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 アドレス帳が移行されなかった場合は、次のようにします。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x/6.x を始動します。 7. メニュー・バーで「ファイル」を選択します。 8. 「インポート」を選択します。次に「アドレス帳」を選択します。 9. 「アドレス帳」ファイル (*.wab) を次のように指定します。C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥Application Data¥Microsoft¥address book¥%SOURCEUSERNAME%.wab (%SOURCEUSERNAME% は、ソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 10. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。 アドレス帳のフォルダーは移行されません。これは Outlook Express の制約事項です。詳しくは、 http://support.microsoft.com/default.aspx?scid= kb;en-us;268716 を参照してください。
Microsoft Project バージョン 98、2000、および 2002	• ツールバー • 設定 • 保存オプション • ファイル場所 • 最新の文書	
Microsoft Visio バージョン 2000 および 2002	• ビュー • ツールバー • カスタマイズ / オプション • 一般 • 作図 • 設定 • 拡張オプション	

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Mozilla Firefox 1.5	• オプション • ホーム・ページおよび接続設定 • 履歴日 / 保存済みフォーム • 履歴日 / パスワード/主パスワード • 履歴日 / 接続 • 履歴日 / タブ • 履歴日 / ダウンロード • 履歴日 / 拡張 / セキュリティー / 証明書	
MSN Messenger バージョン 5.0 Tools	• 個人情報 • メッセージ • プライバシー • 一般 • アカウント • 接続	

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Netscape Navigator バージョン 6.x および 7.x	• 外観 • フォント • カラー • ナビゲーター • ヒストリー • 言語 • スマート・ブラウザー • インターネット検索 • コンポーザー • 改ページ設定 • メールおよびニュース・グループ • メッセージ表示 • メッセージ構成 • インスタント・メッセージング • アドレッシング • Cookies • パスワード	Netscape Navigator を Windows 98 または NT 4.0 から Windows 2000 または Windows XP へと移行している場合は、以下の手順を実行します。 1. 移行を開始する前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。(ここで、%USERNAME%は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) このフォルダーの名前を「SMABACK」に変更します。 2. Netscape を移行します。 3. ターゲット・コンピューターをリブートします。次に Netscape を始動します。 4. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。 5. 「設定」を選択します。 6. 「カテゴリー」で、「詳細」を選択します。 7. 「キャッシュ」を選択します。 8. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx には、ソース側と同じ名前を入力します)。 9. 「設定」を閉じます。 10. Netscape Mail を始動します。「メニュー」バーで「編集」を選択します。 11. 「Mail & Newsgroups アカウントの設定」を選択します。 12. 「サーバ設定」を選択します。 13. 「ローカル ディレクトリ」名を「C:¥Windows¥Application Data¥...」から「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 14. 「ローカル フォルダ」を選択します。次に「アカウント設定」を選択します。 15. 「ローカル ディレクトリ」名「C:¥Windows¥Application Data¥...」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 16. すべての Netscape アプリケーションを再始動します。

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

<table>
<tr><th>アプリケーション</th><th>設定</th><th>注記</th></tr>
<tr><td>Netscape Navigator、バージョン 6.x および 7.x (続き)</td><td></td><td>ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、移行を開始する前に、次の手順を実行します。
1. 「コントロール パネル」を開きます。
2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。
3. 「表示」タブを選択します。
4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。
6. 移行を行う前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。(ここで、 %USERNAME%は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) このフォルダーの名前を「SMABACK」に変更します。
7. Netscape を移行します。
8. ターゲット・コンピューターをリブートします。
9. 「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」を開きます (xxxxx には、ソース側と同じ名前を選択します)。
10. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。
11. 「設定」を選択します。
12. 「カテゴリ」で「詳細」を選択します。
13. 「キャッシュ」を選択します。
14. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% ¥Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx には、ソース側と同じ名前を選択します)。
15. 「prefs.js」ファイルを右クリックし、「編集」を選択します。
16. 「C:¥Documents and Settings¥%SOURCEUSER%¥¥」を検索して、すべての %SOURCEUSER% を %USERNAME% と置き換えます (%SOURCEUSER% はソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名、%USERNAME% はターゲット・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名)。
17. Netscape を開始します。</td></tr>
<tr><td>Norton Antivirus バージョン 7.x および更新版</td><td>• スキャン・スケジュール
• 履歴
• 拡張オプション
• ランダム・オプション</td><td></td></tr>
</table>

表 4. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Palm Desktop 4.1	• ウィンドウ位置 • アドレス帳 • ToDo • メモ • 経費 (Expense)	Windows Vista では、ウィンドウ位置のみが移行可能です。
Symantec Antivirus 9.x	• 更新スケジュール • スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション • ランダム・オプション	
タブレット OS の設定	• タブレット入力ウィンドウの設定 • タブレット・ペンの設定	
WinZip バージョン 8.x	• 列 • 一般 • セクション • ボタン • システム・デフォルト・フォルダー • エクスプローラー機能拡張 • コンテキスト・メニュー・コマンド • その他	

付録 B. トラブルシューティング

このセクションでは、コンピューター環境を移行するときに起こりうる問題に対する解決策を説明します。

表 5.

問題	解決策
移行ファイルが作成できない	ソース・コンピューターのディスクに十分なフリー・スペースがない場合は、次のようにします。 移行ファイルを十分なフリー・スペースがあるネットワーク・ドライブ、または USB ハード・ディスクのような取り外し可能メディアに保存します。
PC から PC への移行が実行できない	ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターで接続が確立されていない場合は、次のようにします。 コンピューター同士がイーサネット・ケーブルでしっかりと接続されていることを確認します。 両方のコンピューターのすべてのファイアウォール・アプリケーションが無効に設定されているか、またはコンピューター間で SMA が通信できるように構成されていることを確認します。 ターゲット PC のサーバー・サービスが開始済みであることを確認します。この確認をするためには、「コントロール・パネル」から「管理ツール」を開き「サービス」をダブルクリックし「Server」を見付けます。

表 5. (続き)

問題	解決策
簡易移行が実行できない	• Windows のエラー・メッセージ「ネットワークパスが見つかりません」が出る場合は、次のようにします。 ターゲット・コンピューター上で「**Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有**」が使用可能に設定されていることを確認します。この確認をするためには、「コントロール パネル」を開いて「ネットワーク接続」をダブルクリックし、ソース・コンピューターと接続に使用する「ローカル エリア接続」の「プロパティ」を右クリックし、「**Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有**」チェック・ボックスを選択します。 • 「リモート サーバーは一時停止されているか、起動途中です。」エラーが発生する場合は、次のようにします。 ターゲット・コンピューターの Server サービスがまだ開始されていません。「コントロール パネル」から「管理ツール」を開き「サービス」をダブルクリックし「Server」の状態を確認してください。ターゲット主導による移行を行うには「Server」サービスの状態が「開始」である必要があります。
ファイルが移行できない	• ファイル・パスとファイル名を足して 250 文字を超える場合は、次のようにします。 短いファイル名またはパス名を使用する。あるいは、移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動してから移行を行ってください。 • ターゲット・ドライブが存在しない場合は、次のようにします。 「選択したファイルの確認」ウィンドウで、ターゲットに存在するドライブへファイルの宛先ロケーションを変更してください。または commands.xml ファイル内で宛先を指定します。あるいは、 移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動してから移行を行ってください。

表 5. (続き)

問題	解決策
ユーザー・アカウントが移行できない	• ソース・コンピューター上にドメイン・ユーザー・アカウントが見つからない場合は、次のようにします。 コンピューターがネットワークに接続されていることを確認します。 ソース・コンピューターからプライマリー・ドメイン・サーバーへアクセスできることを確認します。 • ドメイン・ユーザーの設定がターゲット・コンピューターに移行できない場合は、次のようにします。 ターゲット・コンピューターがプライマリー・ドメイン・サーバーに登録済みであることを確認します。 • ターゲット・コンピューターに SMA が作成したローカル・ユーザー・アカウントの Windows ログオン・パスワードについて。 ユーザー・アカウント名が SBCS 文字の場合は、Windows のログオン・パスワードは自動的にユーザー・アカウント名と同じものが設定されます。 ユーザー・アカウント名に DBCS 文字が含まれている場合は、Windows のログオン・パスワードは自動的に「Passw0rd」に設定されます。
デスクトップの設定が移行できない	デスクトップの設定の一部が移行できない。 SMA を使用して移行できるデスクトップ設定のリストについては、 53 ページの『移行する設定の選択』を参照してください。

表 5. (続き)

問題	**解決策**
アプリケーションの設定が移行できない	• 対象となるアプリケーションがターゲット・コンピューターにインストールされていない。 SMA はアプリケーションをインストールしません。移行開始前にアプリケーションをインストールしておく必要があります。 • アプリケーションの設定の一部しか移行されない。 それぞれのアプリケーションごとの移行可能な設定については、 65 ページの『付録 A. 移行可能なアプリケーション設定』を参照してください。
ネットワークの設定が移行できない	• コンピューター名およびドメインとワークグループ設定を同時に移行しようとした。 このような移行を行うには、次のようにします。 1. まずコンピューター名設定を移行し、コンピューターをリブートします。 2. ドメインおよびワークグループ設定を移行し、コンピューターをリブートします。 3. 残りの設定を移行します。 • ソース・コンピューターで静的 IP アドレスを使用している。 ソース・コンピューターをネットワークから切断してから、移行を開始します。

表 5. (続き)

問題	解決策
プリンターの設定が移行できない	• LPR タイプのプリンターを使用している。 LPR タイプのプリンターを移行する前に、ターゲット・コンピューターに印刷サービスがインストールされている必要があります。 – Windows 2000/XP の場合: 「**スタート**」をクリックしてから、「**コントロール パネル**」を選択します。「**プログラムの追加と除去**」をダブルクリックし、次に「**Windows コンポーネントの追加と除去**」を選択します。 「**そのほかのネットワークファイルと印刷サービス**」オプションを選択し、「**詳細**」をクリックします。「**Print UNIX 用印刷サービス**」オプションをクリックし、「**OK**」をクリックします。 – Windows Vista の場合: 「**コントロール パネル**」を開き、「**プログラム**」を選択します。 「**Windows 機能をオンまたはオフにする (Turn Windows Features on or off)**」をクリックし、「**印刷サービス**」を展開して、「**LPR ポート・モニター (LPR Port Monitor)**」オプションを選択し「**OK**」をクリックします。
バックグラウンド・ユーザーのための遅延適用が実行できない。	ユーザーが PC にログオンするときに、移行ファイルにアクセスできない可能性があります。 ログオン時に「ネットワーク・ドライブ」が接続されるように設定します。ログオン時に取り外し可能メディアを接続します。

付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手

ヘルプ、サービス、技術支援、または Lenovo 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、Lenovo がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。この付録では、Lenovo および Lenovo 製品に関する追加情報を入手するためのアクセス先、問題が発生した場合の処置の取り方、および保守が必要な場合の連絡先を示しています。

依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックしてコンピューターがオンになっていることを確認します。
- コンピューターの資料に記載されているトラブルシューティングのための提案を適用します。
- コンピューターに付属の診断ツールを使用します。診断ツールに関する情報は、ご使用のコンピューターの「*ハードウェア保守マニュアル*」および「*使用上の注意と問題判別*」にあります。
- 技術情報、ヒント、助言、および新規のデバイス・ドライバーを調べたり、情報の要求を出したい場合は、Support Web サイト (http://www.lenovo.com/think/support) にアクセスしてください。

多くの問題は、コンピューターやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。コンピューターに付属の説明資料にも、お客様が実行できる診断テストについての説明があります。大部分の PC システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順およびエラー・メッセージとエラー・コードの説明を含む情報が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

Lenovo システムおよびプリインストール・ソフトウェアに関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。資料には、印刷された説明書、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルがあります。診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいは他のソフトウェアが必要になることがあります。Lenovo は WWW に、最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーおよび更新をダウンロードできるページを設けています。これらのページにアクセスするには、http://www.lenovo.com/think/support に進み、説明に従ってください。

ヘルプおよび情報を WWW から入手する

Lenovo 製品、サービス、およびサポートの最新情報は、Lenovo Web サイト http://www.lenovo.com/think/support にあります。

付録 D. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品, プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の稼働環境では、結果が異なる場合があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではあり

ません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

付録 E. 商標およびライセンス

以下は、Lenovo Corporation の商標です。

Lenovo
Rescue and Recover
Client Security Solution
ThinkPad
ThinkCentre
ThinkVantage

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM (ライセンスに基づき使用しています。)
Approach
Lotus
Lotus Notes
Lotus Organizer
Freelance Graphics
SmartSuite
Word Pro
1-2-3

Microsoft、Windows、Outlook および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ThinkVantage System Migration Assistant は、GNU LGPL ライセンスの下でライセンス交付を受けた 7-Zip プログラムの一部を使用しています。このプログラムの詳細とソース・コードについては、http://www.7-zip.org/ にアクセスしてください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

［カ行］

［サ行］

［タ行］

ThinkVantage

Printed in Japan